

名古屋芸術大学・大学院 後援会報

第62号 2017年3月31日発行

CONTENTS

1	目次 後援会へのお誘い(委員募集)	24	親の想い
2	卒業生に贈る言葉	25	子の想い 私が就職内定をもらうまで
3	名古屋芸術大学近況報告	28	第27回生涯学習大学公開講座報告
17	学生部報告 大学へのお問合せ先一覧	29	音楽学部 第44回卒業演奏会報告 大学院音楽研究科 第19回修了演奏会報告 美術学部・デザイン学部 第44回卒業制作展報告
18	芸大祭報告	30	大学院美術研究科 第21回修了制作展報告 大学院デザイン研究科 修了制作展報告
19	ブライトン大学&名古屋芸術大学 学術交流協定20周年記念式典 2016年ブライトン大学賞	31	後援会研修旅行報告
20	国際交流レポート	32	名古屋芸術大学・大学院後援会会則
21	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果	33	大学運営組織図
22	後援会補助公開講座実施報告	34	せせらぎ合唱団・壁の華 会員募集 編集後記

後援会委員募集

日頃は後援会活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
皆様から頂いています後援会費は、公開講座、芸大祭やクラブ活動、国際交流等様々な活動の補助として役立てられています。

後援会は年4回程度の委員会もありますが、同じ子を持つ親同士の交流や、お会いできる機会の少ない学長先生のお話が伺えるなど、子供の学生生活を身近に感じる事ができる貴重な場であると思っています。

後援会に参加して、私達と一緒に楽しく子供の学ぶ大学を盛り上げていきませんか？

後援会では随時委員を募集しています。

子供たちの身近な場で、皆様とご縁がある事を願っています。

【お問い合わせ】

電話：0568-24-0315（内線385番）

メールアドレス：kouenkai@nua.ac.jp

副会長 余吾めぐみ



卒業生に贈る言葉



後援会長
山田 貢

卒業生の皆様、ご父兄の皆様ご卒業おめでとうございます。

希望に満ちて入学されてから、あっという間の卒業だったかと思います。

名古屋芸術大学での学生生活はいかがだったでしょうか。自由な校風の中で、しっかり悔いなく学生生活を送れましたでしょうか？

また、今後も繋がる親友は得られましたか？

今は、社会の荒波にいきなり放り出される状態で不安もあるかも知れませんね。

これまでは、学生という立場であったので、大学や家族に守られて生活されてきた部分が多くあったかと思います。

社会に出られる方は、大人としての自覚を持ち、自身と社会に責任を持たなければなりません。

大学院等で勉学を続けられる方もそうですが、社会人になっても一生何らかの形で勉強は続きます。

大学で学んだ知識は社会に出てから通用するのは多くはないと思いますが、学び方は大学で身に着けたかと思えます。若い皆さんなら柔軟な思考と吸収力でどんどん力を伸ばして行って下さい。

人生80年として、学生生活の4年間はほんの一瞬の時間で、残り60年あります。

これからがスタートです。まず自分の未来予想図をつくり、それに向かって実現するよう努力を惜しまず、逃げずに頑張ってください。

私には今年、大学院修了の娘がいます。親としての本音は、安定した生活基盤を作って安定した生活をして欲しいと願っています。が、本人は芸術の道を極める方向で精進する意思が固く、行く末が心配ですが暫くは本人の夢の応援をしようと思っています。

いずれにしても、どちらの道を選ぶかではなくて選んだ道でどう生きるかが大事ですね。

さて、後援会長としてファンとして皆さんの演奏や、作品展など随分楽しませて頂きました。有難うございました。

最後に、皆さんの今後の活躍を期待します。

世界に羽ばたいて下さい。そして人生を大いに楽しんで下さい。輝く未来に『乾杯』！



学長
竹本 義明

合共通科目による学際的な学びによる芸術的な素養を高めて、総合芸術大学の中の教育・保育者育成学部の特徴を生かしてまいります。

本学の今までの教育は、専門大学であるために「狭く、深い」という指導をしてきましたが、全ての学生が社会に出て活躍するためには、「広く、浅く」を学ぶ必要があり、専門分野を持った「広く、ある程度深い」素養が重要と考えました。それが芸術学部芸術学科に芸術教養(リベラルアーツ)を加えた4領域を設置した目的です。

あらためて今回の改革・改編におけるキーワードを考えてみると、分野を超えて融合した新しい学びを実現する「ボーダレス」、グローバル人材育成に不可欠な「リベラルアーツ」、大学教育の質的向上を可能にする「3ポリシー」が明らかになります。

本学は、今まで以上に専門性を高めるとともに、将来の変化を見据えた幅広い力を育てるため、専門の枠に止まらない、より広い基礎や教養の涵養を推し進め、学生が社会において進路の選択肢を広げられるよう取り組んでまいります。

卒業生のみならず、ご卒業おめでとうございます。

現代社会の急速なグローバル化や情報化は、人間や物資、知的財産の移動を世界中で拡大させ、多文化社会が形成されています。

そのような社会状況の変化に対応するため、本学は2017年度から新芸術学部芸術学科を始動させます。音楽、美術、デザイン学部が領域を超えて融合する新しい学びができるようになります。

今回の改革に人間発達学部は含まれませんが、全学総

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

毎年恒例の大学オペラ公演が今年度より新たな段階に入りました。今年から5年間、本学と西文化小劇場と連携してオペラ公演を行うこととなりました。共に地域の文化発展に力を合わせて連携していこうという趣旨です。そのためこれに付随して西区区役所での楽しいコンサートも行い市民の方たちに喜んでもらいました。

7月7日の七夕コンサートには院生がオペラアリア等を演奏、11月22日には学部学生による合唱などを披露しました。メインのオペラ公演ですが、先ず第1回目としてオペラ「魔笛」を2月24日から26日にかけて行いました。



出演は4年生中心の組、全声楽学生からオーディションで選ばれた組、そして卒業生と教員の組による3組で構成され名古屋市民も合唱で参加しました。演奏はオーケストラで行いましたのでこの会場では初の本格的オペラ公演となりました。各組ともその力をいかに発揮し素晴らしい公演となりました。3日間とも満席で観客も演奏に大きな拍手を送っていました。アンケートも素晴らしかったという感想が多くあり、この結果に本学も西文化小劇場も来年の公演に早くも胸を弾ませています。

この公演によって在學生も卒業生の力を知り、卒業生も活動の場を得るいい機会となりました。また合唱に参加された名古屋市民の方は、本学の学生たちの礼儀正しさや勉強の熱心さが伝わったようでしたし、卒業生の迫力ある歌声に感銘していました。

声楽コースではかねてから地域との連携を模索して地元中学校でのボランティアオペラ公演やコンサートなどを行ってきました。その一貫した教育姿勢を更に高めるものとしてこれからの西文化小劇場との連携は重みを増してくるものと思われます。これにより学生の演奏意欲も高まり、卒業後の彼らの音楽活動にも示唆を与えるでしょう。

声楽コース 教授 澤脇達晴

ピアノコース

2016年度のピアノコースは、大変活気づいておりました。学内外の演奏会もたくさんありましたし、公開講座も充実していました。

まず4月には、パリ・エコールノルマル副学長で作曲家でいらっしゃるマンサール教授をお招きして、ドビュッシーの前奏曲についての公開講座がありました。

第一部は、ピアノコース3年生の井上優さんと4年生の小林碧葉さん、中島舞さんが前奏曲を1曲ずつ披露しました。本学客員教授の中沖先生の通訳はいつもながらとても理解しやすいもので、マンサール先生がレクチャーされるフランスのエスプリを私達は直に感じることができました。

第二部では、前年度にパリ・エコールノルマルのディプロマを取得した井上さんと中島さんがそれぞれ得意な曲を演奏しました。また、田中範康先生の新曲を本学教授の竹内雅一先生と非常勤講師の山本多恵佳さんが演奏し、華を添えました。

7月には恒例のコンチェルトのタベがしらかわホールで開催され、モーツァルトの第23番を2年生の川松佳菜さんと黒木七聖君が、またグリーグの協奏曲は土屋宗太君と3年生の井上優さんが熱演しました。



名曲の調べに観客は熱心に耳を傾けていました。

続いて8月には、前期の試験で上位の成績を修めた学生たちによるピアノサマーコンサートが開かれました。3号館ホールとあって、近所の方が夕涼みを兼ねて多数来場されました。

秋には「室内楽の夕べ」が弦管打と共に行われました。大変多彩なプログラムが聴衆を沸かせました。このオーディションを受けるため、学生たちは夏休み返上で練習していました。

公開講座では、12月にパリ在住のピアニスト伊藤隆之氏による「ドビュッシーと自然の力・水とジャポニズム」と題した特別な講義があり、魅せられました。また1月には、リスト音楽院名誉教授ジョルジュ・ナードル氏の特別公開レッスンが行われ、2年生の黒木七聖君がリストを、4年生の深町奈緒さんがショパンを弾きましたが、先生のひと言で変幻自在に変わるその力に、皆がびっくりしました。まさにロマン派の真髄を追求するすばらしいレッスンでした。

2月には、2つのコンサートを予定しています。以上のようにピアノコースでは、演奏会の場をたくさん設けて、学生の士気を高めるようにしています。本番を多く重ねて、演奏のすばらしさを掴んでほしいと思います。

今年度、ピアノコースより愛知県高校教員採用試験に1名合格、1名特別支援学級枠に合格したことをご報告致します。

ピアノコース 教授 菅原美枝子

電子オルガンコース

2016年度も終わりを迎え、電子オルガンコースの専科からは四人の卒業生を輩出いたします。うち、二人がヤマハのシステム講師、一人がヤマハの楽器店社員、そして一人は大手一般企業へ、非常に良い形で全員の就職が決まり、実のところ胸を大きく撫で下ろしております。

す。もう少し今年の卒業生らの話を中心に今年度のコースの足跡を辿ってみます。

四人の学生らは女子3人、男子1人という内訳ですが、一人一人の実技レベルが高く、卒業試験などはなかなかの聴き応えもあり、教員としては役得感などもございましたと申せます。加えて、少人数であったことも良い方に作用したのか、非常にチームとしても良く機能して、本人達のみならず、コース全体にわたって良い空気を醸し出してくれておりました。

それは後輩らへのモチベーションを大きく高めてくれました。そのおかげで2016年度も行いました数々のイベント、年末の定期演奏会『アースエコー』は元より、オープンキャンパスでの演奏、夏の稲沢市民会館における名古屋音大とのコラボレーション、一宮市の七夕祭でのステージ、そして年度末の恒例ともなっておりました学生主催のオルガンフェスティバル2017などにおいて、学生らは大いに輝いてくれたとの自負を抱いております。

卒業生らは巣立ちの時を迎えますが、電子オルガンコースの、活きた音楽を発信し続ける伝統のようなものは、後輩らにも脈々と継がれていくことを請け合います。そしてまた幸いなことに、来年度は卒業生より多くの新入生を迎える見込みとなっております。新入生を含む来年度の電子オルガンコースのストーリー？に個人的に期待が持てそうです。

後援会の皆様の温かい愛情に応えるためにも、音楽を通じて社会により豊かな喜びを与えられる人間を育成していく所存であります。どうぞ、今後ともよろしくお見守り下さい。

電子オルガンコース 准教授 鷹野雅史

弦管打コース

今年度の弦管打コースは、後期に非常に多くの演奏会が催されました。

まず後期の授業が始まって間もない9月23日に、第35回名古屋芸術大学ウインドオーケストラ定期演奏会が愛知県芸術劇場コンサートホールにて行われました。今年度も竹内雅一、ヤン・ヴァンデルロースト両教授の指揮による多彩なプログラムで、多くの観客の方に足を運んで頂きました。

そのほぼ1週間後10月2日に、あいちトリエンナーレ2016が愛知県芸術劇場大ホールにて行われました。これは3年ごとに開催される国際芸術祭で、今年度も前回好評だったミュージカルとウインドオーケストラのコラボレーションによるステージを取り上げ、迫力のあるパフォーマンスが実現しました。

更に10月14日には大阪のナレッジシアターにて、日本・ベルギー国交400年の式典演奏会に出演しました。この模様については大学のホームページに記事が掲載されているので、そちらをご覧ください。

11月に入り2つの演奏会が行われました。まずは8日に電気文化会館にて室内楽の夕べ(小編成)が、そし

て25日には第34回名古屋芸術大学オーケストラ定期演奏会が愛知県芸術劇場コンサートホールにて開催されました。室内楽の夕べは、オーディションによる選抜メンバーで8団体が出演しました。またオーケストラの定期演奏会は、竹内雅一教授によるウェーバーのコンチェルトとブルックナーの交響曲5番という、とても渋い組み合わせのプログラムとなりました。

年末12月6日と年が明けた1月15日に大学の3号館ホールにて、室内楽の夕べ大編成の部とアンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン第18回定期演奏会が行われました。両日共たくさんのお客の皆さまに来て頂き、充実した本番となりました。

そして2月23, 24, 25日のオペラ公演(魔笛)に、特別編成の室内オーケストラが出演し、今年度の公演は全て終了しました。来年度より学部改変に伴い、演奏会にも多少の変更があると思いますが、変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

弦管打コース 准教授 依田嘉明

《音楽文化創造学科》

音楽教育コース

本コースの学生の多くは、音楽の指導者を目指しています。彼らにとって「机上の学習」はもちろん大切ですが、加えて、学習したことを実際に自身の目で確認する姿勢も重要で、それにより知識は一層深まると考えます。

3年次開講の「音楽教育Ⅲ」(音教ゼミ)は、一つのテーマについて1年かけて詳しく研究を行う授業で、テーマは毎年異なります。今年のテーマは、前号でも述べたように、「中学校の歌唱共通教材7曲の研究」で、各曲の作詞家や作曲家、また曲の誕生秘話について調査・研究を行いました。最後の授業は、研究に関わりのある地を訪れようと、2月に、唱歌《赤とんぼ》の作詞者三木露風の生誕地である、兵庫県龍野市に行きました。三木の生家や資料館、《赤とんぼ》の歌碑などの他、全国的に人気の高い童謡の歌碑を集めた「童謡の小径」を見学し、音楽家の思いや歌の心などを学びました。日本人として末長く伝えていきたい歌、歌や音楽の大切さについて、改めて見つめ直すことのできた有意義な旅でした。

3年次のゼミは4年次の卒業論文へと続くのですが、昨年のゼミのテーマは「ユネスコ無形文化遺産と音楽文化」で、その影響からか、今年の4年生の多くは日本の祭りに興味を示し、「卒業論文」では、4名が日本の祭りに関わるテーマで論文を執筆しました。そして、2月7日には、各自が1年かけて研究を重ねた卒業論文について、1～3年生の前で発表する機会を設けました。いずれの論文もなかなかの力作で、学生間での質疑応答も活発に行われ、アカデミックな一時でした。

音楽教育は地味な分野ですが、音楽界におけるその役割は大きいと思います。学生たちには、音楽と人間の多

様な関わりを、教育的な視点から見つめられるような音楽教育者・指導者になってほしいと思います。

なお、本コースは2017年度以後は、廃コースとなります。

音楽教育コース 教授 金子敦子

作曲コース

作曲コースでは、作品を創作する上で必要な様々な知識を多角的に学びます。作品を作る上で最も重要なポイントは構成員です。これをしっかり身に付けるためには、理論的な理解が必要になってきます。作曲理論を学ぶ事により、土台のしっかりとした、自らが表現したい音楽作りが可能になるといえるのです。

また、作曲コースの学生はマンツーマンのレッスンを通じて、作曲理論と共に、実際の作品創作をします。入学時点では規模の小さい楽器編成による小曲の創作が中心ですが、ここで動機書法や形式を中心に様々な作曲技法の基礎を学びます。高学年にいくに従って、より大きな編成による無調を含む現代の作曲技法を学んでいきます。学生が創作した作品は、学内の様々な演奏会、卒業演奏会、各種コンクールなどで、譜面上で構築した音楽を実際に聴くことができます。思い通りになっているのか、あるいは思っていたイメージがうまく表現出来ていなかった場合も含め、自分の音楽を客観的にみつめることができる経験をするようになります。このような教育体制の中、作曲コースの学生は、自己の音楽創作の可能性を探求しながら、音楽と真摯に向きあっていると言えます。

作曲コース 教授 田中範康

サウンドメディアコース

サウンドメディアコースでは、9月12日より1泊2日で1年生のフレッシュマンキャンプを行いました。ここでは4年間の具体的な学習内容の確認をはじめ、音楽創作・録音・音響の各分野に別れ、事前に課していた課題を中心に担当教員と密接なディスカッションを行い、個々の能力に応じた教育プログラムを確認することができました。

11月10日(木)本学姉妹校、デンバー大学ラモント音楽院 作曲科長である作曲家のクリス・マロイ氏を招いて交流コンサートを行いました。このコンサートではエレクトロニクスや現代奏法による演奏表現が多く用いられ、作曲を学ぶ学生にとってとても貴重な機会となりました。





2017.02.18 (土)
名古屋芸術大学 東キャンパス
2号館大アンサンブル室
OPEN 14:00 / START 16:00
入場無料・全席自由

制作・演出
名古屋芸術大学 音楽療法専攻 サウンドメディアコース
主催
名古屋芸術大学 音楽療法専攻 音楽療法研究部
協賛
名古屋芸術大学 サウンドメディアコース サウンドデザインコース
協賛
名古屋芸術大学 音楽療法専攻 サウンドメディアコース
http://www.nabun.ac.jp



「KALEIDOSCOPE」
カレイドスコープ(Kaleidoscope)とは、万華鏡を意味する英語である。本コース学生が中心となり、PA/SR・ライブレコーディング・コンサート制作を担当しながら、メディアデザインコースによる映像制作と、エンターテインメントディレクションコースによる照明演出といった、音と密接する分野とコラボレーションしながら、見る人によって様々な変化を魅せる万華鏡のように、独創的な音楽作品の発表をテーマとして毎年この時期に行なっています。従来のアコースティックな音楽表現とともに、デジタル技術を用いた音楽表現を活用し、学生自身がこれらの音楽表現の可能性を広げながら自身のアートについて模索していきます。今回の「リーンカーネーション」というテーマは、「輪廻転生」を意味する英単語で、「現代社会における様々なテクノロジーと、音楽の原点を見つめ直しながら、これからの私達の音楽がどのようになっていくか」という意味を込めた音楽作品が発表されました。

「reincarnation」
2000年代以降の高度なコンピューター技術の進歩により、音楽における音源の多様化がもたらされた。今回の「リーンカーネーション」というテーマは、「輪廻転生」を意味する英単語で、「現代社会における様々なテクノロジーと、音楽の原点を見つめ直しながら、これからの私達の音楽がどのようになっていくか」という意味を込めた音楽作品が発表されました。

Music 演奏団体
 編曲 佐藤 隆一 編曲 佐藤 隆一 編曲 佐藤 隆一
 大友 啓介
 Green field
 柳川 隆
 柳川 隆 柳川 隆 柳川 隆
 柳川 隆 柳川 隆 柳川 隆
 Journey
 柳川 隆
 柳川 隆 柳川 隆 柳川 隆
 Road
 柳川 隆
 柳川 隆 柳川 隆 柳川 隆
 柳川 隆 柳川 隆 柳川 隆
 柳川 隆 柳川 隆 柳川 隆

Installation 展示作品
 impracticable matters
 名古屋芸術大学 音楽療法専攻 サウンドメディアコース
 柳川 隆

カレイドスコープ2017 リーンカーネーション
 KALEIDOSCOPE2017
 reincarnation
 2017.02.18 (土)
 OPEN 14:00 / START 16:00
 入場無料・全席自由
 〒481-8503 名古屋芸術大学 東キャンパス
 2号館大アンサンブル室
 名古屋芸術大学 音楽療法専攻 サウンドメディアコース
 http://www.nabun.ac.jp

2月18日(土)名古屋芸術大学 本コースの作品発表コンサート「カレイドスコープ2017」を行いました。このコンサートは、本コース学生が中心となり、作曲・PA/SR・ライブレコーディング・コンサート制作を担当しながら、メディアデザインコースによる映像制作と、エンターテインメントディレクションコースによる照明演出といった、音と密接する分野とコラボレーションしながら、見る人によって様々な変化を魅せる万華鏡のように、独創的な音楽作品の発表をテーマとして毎年この時期に行なっています。従来のアコースティックな音楽表現とともに、デジタル技術を用いた音楽表現を活用し、学生自身がこれらの音楽表現の可能性を広げながら自身のアートについて模索していきます。今回の「リーンカーネーション」というテーマは、「輪廻転生」を意味する英単語で、「現代社会における様々なテクノロジーと、音楽の原点を見つめ直しながら、これからの私達の音楽がどのようになっていくか」という意味を込めた音楽作品が発表されました。



これからも本コースは、音楽制作・録音・音響を通じて音楽とテクノロジーと芸術の関わりについて学生とともに考えていくことができたと考えています。ご支援のほどよろしく願いいたします。

サウンド・メディアコース 准教授 長江和哉

音楽ケアデザイン 音楽療法コース

9月12、13日には、ジャズポップス、サウンドメディアコースと合同のフレッシュマンセミナーに山梨清泉寮に行ってきました。今回は初めて学生企画の交流ライブセッションを開催しました。当日は、みんなで音楽することを心から楽しんでいました。3コースが音楽で垣根なくコミュニケーションする姿に教員一同感銘を受けました。交流ライブという形で学生同士のつながりを実現した姿は大変頼もしく、また今後の大学生活の学びにおいても非常に重要な基盤となることと思います。フレッシュマンセミナーの名にふさわしい充実した2日間でした。



11月19日には、美術学部主催『旧加藤邸アートプロジェクト～記憶の庭で遊ぶ～』にて、音楽イベントの企画と演奏を行いました。美術学部の学生さんの素晴らしい作品をステージに、参加された様々な年代の地域の方々々と大変楽しく充



実した時間を過ごしました。今後もこのようなアートイベントや地域の集いの場に積極的に関わっていきたくと考えています。



12月19日は、2号館大アンサンブルで学生の演奏を中心としたクリスマスコンサートを開催しました。お世話になっている施設の方や地域の方、そして卒業生が足を運んでくださり、会場は満員御礼状態となりました。学生もこのコンサートに向けて練習や企画に励み、当日も本当に素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。

ご来場の皆さまから多くの感動的な感想もいただき、学生たちにとっても非常に思い出に残る一日になったことと感じています。今後もこのような交流コンサートを継続していきたいと考えております。

また、1月15日に行われた日本音楽療法学会音楽療法士(補)の試験があり、4年生全員が合格するという快挙を成し遂げました。卒業後の活躍に大いに期待したいと思います。

音楽ケアデザイン 音楽療法コース 准教授 伊藤孝子

ミュージカルコース

この1年、ミュージカルコースは2本のミュージカル、5本のコンサート、4本のイベントに出演させて頂きました。その他にも試演会とオープンキャンパスで5回のパフォーマンスを経験しました。

レッスンとリハーサルの繰り返しで多忙な1年だったと思います。ミュージカルコースの目的は明日のミュージカルシーンを担う人材の育成ですので、これでも足りないくらいだと思っています。スタジオでのレッスンで得たものをステージで披露し、確認し、確固たるものとし、自信を得ることはとても大事なことです。この繰り返しの中で、観客が満足するステージを創るには何を学び、何を考え、何を修正すればいいのかが見えてきます。

2016年度の最大のステージは“あいちトリエンナーレ”の「ショービジネスに乾杯！」でした。キャストとバンド、それにスタッフを加えると150人を越えるメンバーで愛知県芸術劇場のステージにブロードウェイを出現させました。ミュージカルコースだけでなく、弦管打コース、エンターテインメントディレクションコース、ジャズポップスコース、サウンドメディアコースのコラボレーションは名古屋芸術大学の持つ力をアピールする絶好の機会となりました。

2017年度も幾つものステージが予定されています。学生たちの創り出す夢のステージへ是非、足をお運び下さい。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

アートマネジメントコース

昨年の11月4日(金曜)、今池のライブハウス「セカンドビジョン」において、アートマネジメントコースの卒業制作公演が行われました。今年4年生たちが選んだのは“ロックコンサート”。すでに3年が終わるあたりからコンサート企画への夢を持ち始めていたようです。

さて、4年生の最初の授業が始まり、いよいよ卒業制作のスタートです。一つのコンサートを企画し運営していくにはあらゆる知識を活用しなければなりません。今まで3年間アートマネジメントコースで学修してきた全てのノウハウの総動員です。先ず行ったのは企画の概要の決定です。全員の意見が反映されていきます。というより闘わされてくと表現した方が良いでしょう。何とか、大まかな形ができれば今度は各係を決めます。会計、広報、庶務、連絡、記録等々。またそこには全体を見渡すためのチーフも必要となります。いざ出発です。知り合いを頼って演奏者を探しました。もちろんプロは謝金の問題で無理なので、アマチュアが主体となります。結局半プロにトリをお願いして全部で6つのグループに声を掛けました。さあ、これから実働の部分に入ります。少ないながらもギャラの交渉、チラシの作成、会場との交渉、大学への広報の依頼、銀行口座の開設……。着々と準備が進められているように思えても、いくつもの問題が出現していきます。教員のヒントに助けられてそれを乗り越え、そしてまた問題点が出現していく、その連続でした。色々ありながらあつという間に本番にたどり着きました。そして終了。さてさて実はこれからが大変です。卒論の作成が待っているからです。

こうした4年生の活動を3年生たちがずっと見守っていました。無関心でいるわけにはいきません。何となれば来年は自分たちの番だからです。毎年こうやってバトンの受け渡し作業が繰り返されていきます。

アートマネジメントコース 教授 山田 純

ジャズ&ポップスコース

9月12日と13日は山梨県の清里で1年生セミナー合宿を行い、将来の目標像について個々の発表とディスカッションを通して4年間の学びの確認を行いました。ここでは何のためにあえて大学でポップスやロック、ジャズを学ぶ意義があるのか、またその学びがどのように自身の将来像につながるかを認識することを目的としました。



演奏発表については、毎学期「ロビーコンサート」と称してセッションクラスの演奏発表を行います。前期は7月21日、後期は12月22日に行いました。ヴォーカルと2つの楽器系アンサンブル、計3つのクラスそれぞれが迫力あるハードロックからグルーヴ感たっぷりのファンク、ソウル、ラテン、ジャズ、アコースティックポップス、ハーモニーが絶妙なボーカルコーラスまで日頃の練習の成果をパフォーマンスしました。このセッション授業は楽器別のレッスンと並びコースの中核となることから、新学科体制においてはさらに4つのジャンル別クラス分けを行い、それぞれ専門教員のもと、個々の目的に即し、より充実した内容で行われることとなります。



コース主催の公開講座としては、10月27日に世界的に活躍しているブルースギタリスト菊田俊介氏、12月15日にシンガーソングライター・ギタリスト・音楽プロデューサーとしてポップス界で著名な高野寛氏を迎えて行いました。どちらの講座でもオープニング演奏に始まり、セッション、音楽人生エピソード、音楽を職業とすることの意味、練習方法、学生との質疑応答&アドバイスと盛りたくさんの内容で行われました。一つの専門を極めながら語学も含め多様な価値観を身につけて音楽活動に反映させていくというトークの内容を、二人の活躍するミュージシャンから直接聞いたことで、学生にも大いに刺激となりました。このような特別講師による音楽観から人生観までカバーする講演は、楽器練習やバンド活動に偏りがちなコース学生にとって視野を広げる意味で重要であるため、今後とも定期的に開催していく予定です。

ジャズ&ポップスコース 教授 上田浩司

エンターテインメントディレクションコース

エンターテインメントディレクションコースは2年目を迎えました。現在、51名の学生が演出、照明、音響、舞台美術、ステージ制作を学んでいます。

このコースの特徴は学内の各種演奏会・公演にスタッフとして参加し、コンサートやミュージカル制作の実際を体験しているところにあります。この1年だけでも、北名古屋市の「ベストテン・コンサート」や「市施10周年記念式典」、高山市の「飛騨・童話会議」、武豊町の国民文化祭企画、ミュージカル公演、オペラ公演、カレイドスコープなどの企画、演出、照明、音響、舞台進行を担当しています。

教室で学んだことの実際をステージの製作現場で体

験し知識と技術を確かなものとする、この方針のもとに学生たちはかなりのスピード感を持って進化し続けています。

また、1月には東宝ミュージカル「ミス・サイゴン」の舞台稽古を見学させて頂き、プロの舞台制作の全てを見ることが出来ました。

2月にはコースの実験公演である「2nd Performance」が行われ、ミュージカルとコンサートが創作されました。ミュージカルはあの名作「レ・ミゼラブル」、コンサートはキャンパスライフをテーマにしたもので、その全てを学生たちだけで創り上げました。

新しい時代の新しいステージ創作を目指し、学生たちは休みなく様々なものを逞しく吸収し続けています。

エンターテインメントディレクションコース
教授 森泉博行

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

後援会の皆様には、常より本学の教育と実…音楽学部は主に演奏や公演…に於いて多大なるご理解とご協力を賜り、大いに感謝を致しております。ここでは総合コースに関するご報告をさせていただきます。

その始まりの頃、総合コースは、特定の専攻楽器を決められない、あるいは持たないけれど音楽を愛し学びたい気持ちは強い！という学生に本学に来て、先ずキャンパスで音楽の諸々を学んでもらい、3年になる頃までに自分はどの分野を歩こうというのを決めてもらうというスタンスでした。そして2016年度の年度末に定例の全学年の総合コースの学生面談をいたしました。もはやこのコースは、より広く、そしてより深く学びたい学生のためのコースなのだとすることを大きく実感致しました。3年次になりますと、専門のコースを決めて出て行くどころか、総合コースに留まり、あるいは他コースから総合コースに「敢えて」入りたいという学生が多く目立ちました。実技レッスンを受け続けたいというのを含め「もっと広く、もっと深く学びたい」という学生らの率直なる学習意欲を感じることが出来て感動すら致しました。

2017年度からいよいよ新しい名古屋芸術大学が「ボーダーレス」をキーワードに始動いたします。元より人間発達学部の導入など、特化した芸術の学び舎から抜け出した個性豊かな教育現場を提供して世の信頼を得てまいりました本学が、この改革によってリベラル・アーツの摩天楼、いえユニヴァースとして日本の中心に聳え立つ未来も見えてきました。その中に於ける総合コースは、芸術教育の新世界、約束の地に入る港の役割を存分に果たすことになることなのでしょう。想像し得なかった豊かな未来に身震いすら覚えるのです。新たな名芸の新しい総合コースを、これからは是非お見守り下されば幸いです。

音楽総合コース運営委員会委員長 准教授 鷹野雅史

美術学部

『版の方法論 50×50=75』



今年度の美術学部企画展『版の方法論50×50=75』が2016年7月15日(金)～7月27日(水)アート&デザインセンターセンターギャラリーにて開催されました。この展覧会は2016年度に名古屋芸術大学とブライトン大学の姉妹校提携が20周年を迎えることを記念し、最も新しく姉妹校提携を結んだタイのキングモンクット工科大学(KMITL)と3大学の版画部門で行われた国際交流プロジェクトです。3大学の



学部上級生・大学院生、卒業生作家、教員の版画作品を本学のギャラリーで展示し、会期中にそれぞれの大学合同の公開制作とワークショップ、ならびに版画に関する現状や様々な取り組みなどを、学生、教員によるシンポジウムで紹介・討論しました。

旧加藤邸アートプロジェクト 『記憶の庭で遊ぶ』2017

北名古屋市の国登録有形文化財『旧加藤家住宅』で、恒例の「旧加藤邸アートプロジェクト『記憶の庭で遊ぶ』」が11月12日(土)～20日(日)まで開催されました。美術学部とデザイン学部それぞれの卒業生ユニット2組と美術学部在学学生7名が選抜され、ホワイトキューブでの展示とは違うアプローチの作品が、旧家屋と不思議にマッチングした展示となりました。会期中には音楽学部音楽デザインケアコースのグループによる音楽パフォーマンスも行われました。



その他の下半期の報告として、日本画コースと洋画コースのトピックスを紹介します。

【日本画コース】



- ① 10月25日、12月8日
国宝の修復を行う墨匠堂 脇屋助作氏による裏打ち実習が実施されました



- ② 1月29日
日本画コース歴代助手による展覧会「sikaku展」にて学生と制作について語り合う会を設けました。

- ③ 2月10日
山梨県「硯匠庵」にて雨畑真硯のレクチャーを受けました。



【洋画コース】



- ① 美術手帖B T 12月号「～ニューカマーアーティスト～」特集にて洋画2コース4年生の内田麗奈さんが掲載され、他にも卒業生3名が掲載されました

- ② 東京造形大学大学院との交流展が10月7日～12日までアート&デザインセンターギャラリーにて開催されました。



- ③ 今年度客員教授である
トーキョーワンダーサイト館長の今村有策氏が
10月10日・11日に講評会と特別レクチャーをおこないました。
レクチャーでは本学の長田謙一教授と対談しました。



- ④ 2月21日～3月5日
長者町トランジットビル4階
AMRにて
洋画2コース3年生展が行われました。



- ⑤ 1月18日～22日に開催された長久手文化の家 絵画コンクール展において大学院洋画制作研究・熊谷歩さんが大賞を受賞し、3年1コース・佐藤優美子さんが佳作賞を受賞しました。他には柏倉景さん(大学院洋画)、伊藤美穂さん・西尾香純さん(3年1コース)、1年岡田智貴さんが入選しました。
- ⑥ 公募推薦制 中部春陽2016年展で4年1コースの京極真由未さんが新人賞を受賞し11月15日～20日に開催されました。
- ⑦ 第65回中津川市民展で3年1コースの西尾香純さんが奨励賞を受賞し11月26日～12月4日に開催されました。

美術学部長 須田真弘

デザイン学部

2016年度後期デザイン学部の活動について報告

2016年度卒業制作展が愛知県美術館と矢田市民ギャラリーで2月21日から2月25日まで開催されました。学生の1年の活動が卒制展でほぼ完了します。3月20日には大学の最も重要な行事である卒業式をもって社会への第一歩を踏み出す4年生を送り出します。

今回はデザイン学科の各コースからの報告をまとめました。それぞれ特色あるコース展開で学校外での活動を行っています。

【スペースデザインコースからの報告】

2016年度前期は、2010年にスペースデザインコースを卒業した服部隼弥さんと那須裕樹さんがミラノで開催された「Salone Sattelite Award」(サローネ・サテリテ)にて2nd prizeを受賞。二人はデザインスタジオBouillonを設立し、今後も活躍が期待されている。

後期は、2年生の学生の受賞が報告された。木を活かす建築推進協議会の、木造建築物の提案、空間に係る提案、木を活かした家具の提案など「第3回木を活かす学生課題コンペティション」において、「木を活かす学生課題コンペティション ものづくり部門賞」(社団)を受賞。スペースデザインコースでは2年生で、家具デザインの入り口の課題として、杉の間伐材と段ボールを使ったテーブルデザインを課している。15ミリ厚段ボールは丈夫で、木材と同じようにテーブルソーで加工でき仕口もデザイン的に工夫できる。たくさん模型を作りそれらから1つだけ選択し、原寸図を描き木工房で制作する。今回、伊藤深又、岩堀萌、加藤瑞乃、小栗里奈、竹内ひかりの5名がコンペに参加した。東京で開催される授賞式で、プレゼンを行う。



【ビジュアルデザインコースからの報告】

V Dコースは視覚を通じたコミュニケーションを目標としさまざまな産官学連携、交流を行っている。

- 株式会社 読売エージェンシー東海からの産学連携ふるさと全国県人会まつりうちわデザイン制作について。約15万人が参加するふるさと全国県人会まつりのうちわデザインの制作を行った。制作されたデザインは当日使用されると共に読売新聞に掲載された。
- D I C グラフィックス株式会社、D I C カラーデザイン株式会社と産学連携の共同研究として「ナゴヤの色」をテーマに共同研究を実施した。
- 中部国際空港でセントレア限定のボージョレ・ヌーボーラベルデザインコンペで、V D コース学生が多数受賞。今年度は最優秀賞を馬曉娜(まきょうな)さんが獲得した。
- 株式会社秋田屋で日本酒ラベルデザインを、コースコンペとして企画、採択者のデザインは製品化予定である。
- 株式会社C B C テレビ 60周年キャラクターの友達キャラクター制作に参加。
- J A G D A 愛知サンデースクールにコース学生が参加した。
- 刈谷市役所教育委員会の受託事業として偉人伝紙芝居制作。制作された紙芝居は刈谷市の幼児教育に使用されている。
- 津島市環境基本計画推進ポスターコンペの実施。1247名もの市民投票が得られる規模で実施された。また統一名刺デザインのVI制作などこれらの取り組みが2月2日中日新聞朝刊に掲載された。



【メディアデザインコースからの報告】



メディアデザインコースでは、学内だけではなく学外との関わりも積極的に取り組んでいる。3年生によって毎年12月に行われるライブパフォーマンス「Media Live」は、今年半田市の「ミツカンミュージアム」で開催されました。学生自身がその場で感じとった「歴史」をテーマにミュージアムを訪れる観客に向けた体験型のイベントとして提案されました。また2017年2月には2年生を中心に音楽学部サウンドメディアコースとの共同イベント「カレイドスコープ 2017」も実現し、音楽と映像によって構成されるコンサートが実現しました。

【ライフスタイルブロック デザインマネジメントコースからの報告】

日常生活へのリサーチやその先にある編集作業、思考に重きを置き、領域横断的な視点でデザインを捉えるライフスタイルデザインコースもその設立から16期を迎えました。これまで通り就職先もデザインや編集、マネジメント、営業、教育など幅広い職種に渡っています。今年度から来年度にかけて新たな非常勤の先生方のご協力を得て、リサーチ、コンセプティング、マネジメント、編集、イベントへの授業内容を学生と時代のニーズに応じ刷新しています。それら通常の授業に加え、岐阜県御嵩町からの受託研究（舩五山茶ブラッシュアップ事業）、北名古屋市を舞台にしたコミュニティーデザイン活動（土と人のデザインプロジェクト）などの活動にも積極的に学生が参加しています。



御嵩町（舩五山茶ブラッシュアップ事業）での課外活動の様子

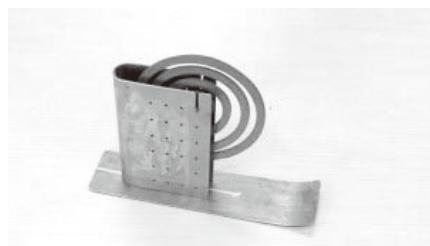
【テキスタイルデザインコースからの報告】

デザイン学部テキスタイルデザインコースは、2005年より有松絞りの産地、名古屋帽子など大学近郊の産地とテキスタイル開発のプロジェクトを行ってきました。昨年度より新たに、尾州毛織物産地と産学連携プロジェクトを開始しました。学生がデザインした生地を尾州産地で生産し、ファッションメーカーを招いて東京のコセリギャラリーで、〈NUA textile lab〉のファーストコレクションとして受注展示会を開催。学生の資質の向上と、尾州産地の魅力を地域外にも広く発信することを目的としています。こうした本学テキスタイルデザインコースの産学連携の取り組みが中部経済新聞および織研新聞に取り上げられ、大きく報道されました。



【インダストリアル&セラミックデザインコースからの報告】

産学共同プロジェクトでお世話になっているナガサキ工業株式会社に対し、このたび、同社から「名古屋芸大生夢サポート募金」に多額のご寄付を頂いたことから、感謝状をお送りすることとなり、その贈呈式が執り行われました。今年度の産学共同プロジェクトで審査の結果製品化されることになった作品は、4年生の網島早織さん制作〈ハットスタンド〉4年生赤堀公美さん制作〈蚊取りスタンド〉IDコース助手の齋藤美貴さん制作〈ウォッチスタンド〉これらの作品は、ナガサキ工業株式会社のネットショッピングサイト「アイアン☆ラボ」で販売されることとなります。



絵本作家 三浦太郎展
こどもアイデンティティー
—「Je suis...」から「まうちん」まで—
2016.10.21(土)~11.2(日) 12:15~18:00
18:22 sat. 14:00~16:00 sun.
名古屋芸術大学 Art & Design Center

【イラストデザインコースの報告】

2016年度デザイン学科の特別客員教授として絵本作家の三浦太郎氏を招聘した。A&Dセンターで展示する作品を学内で2週間の滞在制作を行った。「こどもアイデンティティー」

こどもの性格は千差万別。一人ずつ違った個性を持っています。こどもたちの「顔」からにじみ出る個性を紡ぎ、大きなパネルにステンシルの技法で定着させました。また対談形式の講演会も開催され学外からも三浦太郎氏のファンが多く訪れた。

【メタル&ジュエリーデザインコースの報告】

素材展〈2016年7月29日～8月10日〉がアート&デザインセンターで、クラフトブロックの2年・3年・4年・院生の学生たちがpart1、part2の2週にわたり作品を発表しました。

【メディアコミュニケーションデザインコースからの報告】

毎年文化庁主催のメディア芸術祭を見学のため東京研修を実施していたが、今年は2月10日・11日で直島・豊島研修を実施した。関西、名古屋と大雪の情報が出る中、強風だが晴天の直島宮浦港に現地集合で2、3年生が集まった。32名全員では島のバスに乗れないため、ほとんど徒歩で移動。本村プロジェクトで町屋を生かした建築や現代美術の作品に触れ、地中美術館のモネに新鮮な衝撃を受け、タレルを満喫し(ナイトプログラム)、豊島では豊島美術館や横尾館を訪れた。作品と空間、と島々の風景といった壮大なサイトスペシフィック・ワークを体験した。



人間発達学部

人間発達学部は発足以来10年目を迎え、来年度から二学部構成の一学部としてより重要な位置をしめてくるようになります。学部では、より全国的にも例のない芸大の中の保育・教育系学部の特色を更に高めていく方針を固めております。幸い、50年あまりの歴史をもつ自由学院短期大学保育科・児童教育科・名古屋芸術大学短期大学部保育科そして人間発達学部の卒業生のお力もあり、保育・教育の実習や就職では多くの激励と鞭撻の言葉もいただいております。学生たちも多くの先輩に囲まれながら目標をもって充実した学生生活を送っています。『春を呼ぶ芸術フェスティバル』や『フレッシュマンセミナー』で実行委員を任された3年次学生たちに代表されるように後輩に暖かく接することができる学生が多く在籍していることも人間発達学部の特色の一つであるとも感じられ、嬉しい限りです。

学部行事

(1)特別公開講座

人間発達学部が主催する特別公開講座【対話的保育カリキュラムとその実践—保育者と子どもが織りなすステキな保育—】が、加藤繁美氏（山梨大学・教授）を講師に、9月24日（土）ウィルあいち（名古屋市東区）で開催されました。会場には、学部学生をはじめ、卒業生や、教育現場に携わる多くの方々が来場されました。講座では、加藤氏の『対話する保育の現代的課題』から「対話的保育カリキュラム」「保育実践における子どもの位置」「子どもの声をていねいに聴き取り、子どもの声を正當に評価する保育」などの内容に加え、様々な保育での事例を交え、子どもの声に耳を傾ける保育実践の講演をされました。

2016年度 名古屋芸術大学 人間発達学部 特別公開講座

対話的保育カリキュラムとその実践
—保育者と子どもが織りなすステキな保育—

日時 2016年9月24日(土)午後2時30分開演
午後4時30分終演予定

会場 ウィルあいち
【愛知県女性総合センター】
〒461-0016 名古屋市東区上野杉町1番地
TEL:052-962-2511(代表)

講師 加藤 繁美 氏
山梨大学教育学部・大学院
教育学研究科教授

講師紹介
「0歳～6歳、心の育ちと対話する保育の本」(学研教育出版/2012年)など、現代重視されている子どもとの対話を大事にした保育を提言されている。

申し込み締切日
9月16日(金)
参加費無料
定員800名

【申し込み方法】
参加希望者は、氏名・住所・FAX番号または電話番号を記入したものを、下記申し込み先にFAXでお送りください。
なお、会場の定員(800名)を超えない申し込みが条件です。それ以外の申し込みには、入場できない旨をFAXまたは電話にてご連絡いたします。あらかじめご了承ください。
申し込み先:名古屋芸術大学 人間発達学部 (FAX:0568-24-0317)

主催:名古屋芸術大学 人間発達学部
後援:愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会、北名古屋市、北名古屋市教育委員会、人間発達学部同窓会

【問い合わせ】
名古屋芸術大学 人間発達学部 人間発達研究所
愛知県名古屋市中区三軒又281 TEL:0568-24-0315(代表)
問い合わせ 電話 TEL:050-5021-1267

(2)文化創造セミナー

5月26日(木)、文化創造セミナー【身近で楽しい音さがし】が開催されました。今回のゲストは「kajii」で、茶碗、どんぶり、湯のみなどを使ったオリジナル楽器「食琴(dishphone)」をメインに身の回りにあるあらゆる日用品で音楽を奏でる実践を披露してくれました。後方中央の扉から、「食琴」を肩から掛けたクマーマと、洗濯板を中心にいろいろなモノを取り付けた楽器を首に掛けた創が、拍手に送られて入ってきてセミナーがスタートしました。セミナーの締めは、「kajiiの森」でした。クマーマが食琴で、創は森をイメージした打楽器で、学生たちが制作したチャフチャスも取り付けて演奏してくれました。森から生じる様々な音をイメージできる演奏でした。



開演前の満席のセミナー会場の様子



「きらきら星マシーン」で、茶碗を順番に叩き演奏する男子学生



「kajiiの森」演奏

(3)就職セミナーⅠ・Ⅱ

11月19日(木)、【就職セミナーⅠ】が開催されました。就職の決定している4年生が2・3年生に向けて体験談を話す形で行われ、公立幼稚園・保育所、私立幼稚園・保育所、小学校、福祉関係施設、企業・一般公務員の説明があり、ディスカッションが開催されました。

就職という人生の岐路を間近に控えた2・3年生は真剣な表情で先輩の姿を見つめ質問をしたり先輩方の体験談のメモを取ったりしていました。

続けて1月21日(土)【就職支援セミナーⅡ】を実施しました。

在學生に、就職のための意識を高めようとのねらいで、5名の卒業生をお招きして、それぞれの職場の仕事内容や就職活動で努力したことなどをお話しして頂きました。公立幼稚園・保育所分野、私立幼稚園・保育所分野、小学校分野、福祉分野、一般企業分野それぞれの卒業生の体験談を、在學生たちは真剣に聴講していました。後半は、分野別に分かれて相談コーナー。先輩たちにさらに質問や相談をしようということで、とても熱心な姿が見られました。



(4)卒業論文制作・修士論文発表会

1月26日(木)、【卒業論文制作発表会】を開催しました。3年・4年のゼミで2年間をかけて勉強してきた成果を、各ゼミに分かれて発表し、2年生・3年生の後輩たちも参加して活発な質問や討議が行われ、充実した一日となりました。

【大学院修士論文発表会】は2月15日に行われ、活発な討議が展開されました。



(5)春を呼ぶ芸術フェスティバル

2月11日(土)、3年生実行委員が独自に企画運営する【春を呼ぶ芸術フェスティバル】を開催しました。近隣の市町村の保育所・幼稚園・小学校にチラシを配布すると共に、来年度本学部入学予定者に参加を呼びかけて、今年度は特に実行委員の結束が固く来年度入学予定者や一般の方々の評価が高く素晴らしい内容のフェスティバルになりました。これを機に学生たちも自信につながったと確信しています。



音楽指導法(合唱)



(6)保護者会

2月4日(土)【学部保護者会】が開催され1・2・3年生の学生の保護者25名が参加されました。Ⅰ部の全体会では、人間発達学部の学生生活、学修支援、各種の学外実習の説明、および就職支援の説明がなされ、保護者の皆様は熱心に耳を傾けておられました。Ⅱ部では、個別相談に応じたり、就職支援センターを紹介したりし、本学の教職員と親しく話し合う機会がもてました。



式守あやかさん、佐竹美早紀さん



和太鼓部の演奏



リズム体操部

(7)学生の就職状況

2月の時点で進路が内定した学生の内訳ですが、公立小学校正規採用3名、常勤講師11名、保育所36名(公立18名、私立18名)幼稚園19名(私立19名)、施設職員11名、公務員1名、一般企業22名、進学3名です。今年は公立保育所等正規採用の比率が非常に高く、学部就職委員会が機能し始めた成果といえます。また、今年度も1年から数年の現場経験を積みながら努力し正規に合格する卒業生も多くみられます。今後の努力に益々期待が膨らみます。

(8)教員移動

本年度末をもって、古川美枝子教授(音楽)石田直章教授(健康体育)の二名の先生が退職されます。古川先生や石田先生は学部の前身である自由学院短期大学保育科の時代から発展にご尽力され、それぞれ子どもコミュニティーセンター長・学部教養部主任を経験されております。お二人が本学部を去られることは極めて残念なことです。来年度4月から、心理学の久久保義美先生が着任されます。人間発達学部は発足して10年を経ました。新年度からは新しい教員の顔ぶれを含め「発展期」と呼ぶにふさわしい年度となるよう教員一同力を合わせていきたいと思ひます。

人間発達学部長 教授 星野英五

学生部報告

後援会の皆様には、日頃から本学のために多大なご理解、ご協力をいただき、深く感謝しております。今後とも、大学の発展の観点から色々とご意見をお寄せいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

大学も昨今、時代の流れとともに質的变化を見せてきており、教育・研究の高等教育機関であることに加えて、社会的貢献が求められています。本学はこうした要求に応えて、以前より、学生への在学中の生活問題や将来への展望という点から、学生相談の活動を重視してきました。今回は本学の「学生相談室」(以下「相談室」)の活動を紹介させていただきます。

(1)まず運営についてですが、「相談室」は5名の臨床心理士と1名の相談室長(心理学担当の専任教員)で構成され、東西両キャンパスとも月～金の通常時間帯に開室しております。

(2)来室学生は、2015年度(16年度は未統計)の延べ数は1487人で、2010年度から2倍強となっています。実数は2015年度、音楽学部が20人、人間発達学部13人、美術学部39人、デザイン学部32人、大学院生2人です。

(3)相談内容の特徴は、修学上の問題19%、メンタルヘルス19%、対人・異性関係9%、コンサルテーション

17%でした。深刻な抑鬱状態の学生に対しては、学校医や近隣の心療内科のクリニック等に協力を求め、学生の修学状況の改善に努めております。

(4)「相談室」の具体的な特別活動としては、新一年生に入学時にガイダンスとアンケートを行い、来談希望の学生に対しては、6月段階で様子伺いを実施します。さらに在學生には啓蒙の一環として年2回の「学生相談室通信」を発行し、相談受け入れの呼びかけを行っております。

また保健室と学生支援課の協力も得、学生自治会役員など上級生に参加を求めて、特に新入生のサポートを行っています(料理経験の少ない学生のために「ビギナーズクッキング」も実施)。

(5)今後の課題としては、教職員の学生対応のスキル向上の研修、休学者等を含むサポート体制の一層のシステム化、「学生ケースワーカー」の専任化を考えています。

本学は入学から卒業まで、修学と生活の両面での学生の手厚い支援を念頭に置いて、今後とも質的向上に努力して参りますので、ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

学生部長 教授 橋本裕明

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
成績について 証明書発行について	教務課		
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		西キャンパス (美術学部・デザイン学部) 0568-24-0325 (代)
教員免許・学芸員資格について	教職センター(実習指導室)		
交換留学について	国際交流センター(国際交流センター室)		
生涯学習講座について	生涯学習センター(学院広報室)		0568-24-0359 (直通)
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課	東キャンパス 0568-24-5141 (直通)	
アート&デザインセンターで開催 する展覧会について	アート&デザインセンター	西キャンパス 0568-24-0325 (代表)	
後援会について	事務局(事務部長)	東キャンパス 0568-24-0315 (代表)	

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

■ 2016年度 東キャンパス芸大祭

今年度、「楽しみな祭 楽しませな祭 芸大祭」をテーマとし、来場者・出演者・出店者、そして、芸大祭実行委員会も楽しみ、楽しませる芸大祭にしようという想いを込めました。

1日目は残念ながら雨。急遽、屋外ステージで予定していたスケジュールを施設の中に変更しました。開催場所の変更案内を看板や放送によって声をかけ、予定通りステージを始めることが出来ました。また、子ども向け企画では、多くのお子様に来て頂き、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくいなどのゲームを楽しんでいる姿が見られました。2日目・3日目は、天候にも恵まれ、1日目よりもさらに多くのお客様に足を運んで頂きました。屋外ステージも通常通り、様々な企画を催し、学生・お客様を盛り上げていました。毎年恒例「ピンゴ大会」も盛り上がり、豪華景品が当たった方はとても喜ばれていました。和太鼓やダンスサークルのステージ発表、サークル対抗などのイベント、そして演奏。観ていて楽しめる・参加して盛り上がる。屋外ステージではそんな様子が見られました。屋内ステージでは、ミュージカルやバンド演奏・クラシック演奏など屋外とはまた違った雰囲気の中で盛り上がりを見せていました。

子ども向け企画では、雨のため中止していたふわふわドームを開き、何度もふわふわドームに足を運ぶ程、とても楽しんで頂きました。今年度は、近くの小学校や幼稚園・保育所に芸大祭の宣伝で回ったことにより、想像していたよりも多くのお子様に来ていただきました。お子様の楽しむ姿がたくさん見ることができ、とてもうれしく思いました。模擬店は、屋外ステージと同じ場所に多く出店したため、屋外ステージの盛り上がりも伝わり、出店者も楽しんでいただいているように思います。外来ゲストには、tupera tupera(ツペラツペラ) 亀山達也さんをお呼びし、講演を開催しました。数々の絵本を出版されており、NHKでもご活躍されている方なので、興味を持って県外から来場される方も多く見えました。

今年度の芸大祭もたくさんのお客様に来て頂き、大変賑やかなものとなりました。心よりお礼申し上げます。また来年度も、さらに盛り上がる芸大祭になるよう努めていきたいと思っています。

東キャンパス 芸大祭実行委員長 舛井実樹



■ 2016年度 西キャンパス芸大祭



2016年度の芸大祭のテーマは「びびっと」です。このテーマには、“ビビ” っとくる直感的な意味と鮮やかに彩られる、2つの意味があり、大学祭という特別な空間の中で、誰も味わったことのないような、初めての体験を、この芸大祭「びびっと」で感じてほしいという思いが込められています。

10月28日(金)から始まる芸大祭に向け、来場いただいたお客様の思い出に残るような芸大祭になるよう、一丸となって準備を進めてきました。昨年度に引き続き、ステージイベント、軽音部の演奏、外来イベントを行い、芸大祭全体を盛り上げることができました。また、学生たち、先生方が作り上げた、それぞれの個性にあふれた模擬店の数々、例年より店舗数は少なかったですが、多くの学生の協力があったからこそこの芸大祭なんだと実感しました。

名芸の芸大祭は、初めて名芸に来る方、名芸のOB、OG、地域の方々に来てくださり、皆様が一緒に盛り上げてくださいます。芸大祭への情熱、盛り上がりはたくさんの方々を支えられ、今に引き継がれてきました。私が芸大祭を大好きでいるのも、過去の先輩たちの熱意の継承だと思っています。



ブライトン大学 & 名古屋芸術大学 学術交流協定20周年記念式典 2016年度ブライトン大学賞

ブライトン大学との学術交流20周年記念式典並びに2016年度ブライトン大学賞授与式を、2月24日(金)名古屋東急ホテル3階錦の間において開催いたしました。

ブライトン大学との学術交流協定が締結され20年目の節目を迎え、20年の持続的な交流が、両校の強い信頼関係を築いていると深く感じています。今年度は、20周年を記念し、両大学の教員間における記念事業を実施し、この式典の中でその成果が紹介されました。



また、今年度はブライトン大学より、アート&ヒューマニティーカレッジ学部長 アン・ボディントン教授、美術学科長 アマンダ・ブライト教授の2名が来日され、2月22日(水)に卒業制作展の3会場を廻りノミネート作品を中心に審査が行われました。20周年記念式典と併せてブライトン大学賞授与式が行われ、華やかな集いとなりました。

記念式典では、ブライトン大学との交流にご尽力されました歴代の後援会長様始め、所縁のある皆様にご臨席賜り、20年の歴史を振り返ることができました。

式典の進行にあたりましては、水内智英国際交流センター長の開式の辞に始まり、竹本義明学長の挨拶、元学長で初代の国際交流センター長である大島俊三様の来賓の祝辞と続きました。

大島俊三様からは、20年前にブライトン大学の元美術・デザイン学部長 ブルース・ブラウン教授との出会いから始まった両大学の交流についての思い出深いお話をいただきました。

その後、須田美術学部長よりブライトン大学との学術交流20周年記念として、実施した2つの記念事業(対話によるドローイング制作、地域の魅力を伝えるメディア

としてのゲストハウス)についてその目的と成果について説明がありました。さらに西村教授より本学とブライトン大学、キングモンクット王工科大学ラートクラブ校の3大学による交流プロジェクト(版画公開制作とワークショップ:「版の方法論」)についての報告がなされました。

続いて、アン・ボディントン教授による挨拶、そしてブライトン大学各賞の表彰状授与が行われ、アマンダ・ブライト教授より、佳作6名、奨励賞2名、優秀賞1名、グランプリ1名の計10名が順番に発表され、各作品について丁寧に講評を述べられました。

祝賀会では、山田後援会会長の挨拶から始まり、第1回ブライトン大学賞グランプリ受賞者である美術学部日本画卒業の水野幹子さんが当時の授与式の思い出を述べられました。その後、今年度ブライトン大学へ留学をされた3年生の柴田智江さんが留学での充実した制作活動やブライトン大学への感謝の気持ちを述べられ、会場からは大きな拍手が送られました。

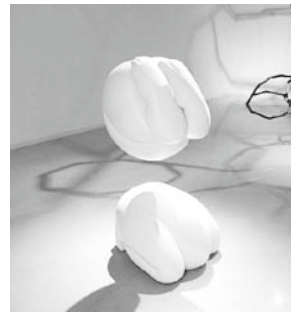
この記念式典を機に本学とブライトン大学との交流が更に発展的に展開されていくことが期待されます。

2016年度ブライトン大学賞受賞者

賞	コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン学部デザイン学科 スペースデザインコース	村松 希紗	「家を仕立てる～服から始める2人暮らし～」
優秀賞	美術学部美術学科 アートクリエイターコース(彫刻)	中山 亜季	「ぶらまい0」
奨励賞	デザイン学部デザイン学科 メタル&ジュエリーコース	菅野 慎	「コスモス」
	デザイン学部デザイン学科 メディアデザインコース	大久保志帆	「Mask Doll」
佳作	美術学部美術学科日本画コース	三井 里花	「永劫回帰」
	美術学部美術学科洋画2コース	藤原 葵	「Rebirth」
	デザイン学部デザイン学科 スペースデザインコース	矢田 春菜	「tsugitote」
	デザイン学部デザイン学科 セラミックデザインコース	権田 明子	「ゆらりんころりん」
	デザイン学部デザイン学科 ビジュアルデザインコース	村田 亮波	「Living pattern」
	デザイン学部デザイン学科 ビジュアルデザインコース	長谷川 匠	「味がある」ということ。」



グランプリ 村松希紗

優秀賞
中山亜季

国際交流レポート

デンバー大学
語学研修プログラムの実施

近年の国際化の流れの中で芸術大学においても語学教育の重要性が高まっています。そうした中、2016年度より全ての学部学科の学生を対象とした合同語学研修プログラムを本学国際交流センターと、学術交流協定校であるデンバー大学国際室及び附属語学学校(米国コロラド州)が共同で計画し、実施しました。

第1回目となった今年度は、2月20日から3月6日までの15日間、音楽・美術・デザイン・人間発達学部、大学院から9名の学生が参加し行われました。この研修プログラムの特徴は、デンバー大学附属語学学校のESL専門教員により計画的・段階的に行われる毎日の授業に加え、音楽・美術・デザイン・人間発達の専攻に関わる活動が組み込まれていることです。今年度は、音楽学部生のためのコロラド交響楽団のコンサート見学、美術・デザイン学部生のための現地の美術館やギャラリーツアー、人間発達学部生のためのデンバー大学附属幼稚園及びデンバー大学近隣の公立小学校での授業見学と参加が行われました。また、デンバー大学の一般学生が受講する授業の聴講な

プログラムに参加した学生、
本学・デンバー大学の教職員

ども取り入れられ、充実したプログラムとなりました。またそれらの全ての活動が英語を用いて行われるため、語学学習と専門分野での学びが接続されます。

また、今回の研修期間には併せて本学音楽学部とデンバー大学ラモント音楽院との交流演奏会も行われました。

この語学研修プログラムは総合芸術大学である本学独自のものであり、次年度以降もこのプログラムをデンバー大学関係諸学部、諸機関との連携の中で継続的に実施し、学生の国際教育を後押ししていく計画です。

国際交流センター長 水内智英

皆さん受賞おめでとうございます!

2016年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。学外のイベントでの受賞者については、本人および教員を通じて大学に報告があった内容を掲載しています。

音楽学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
2015年						
12月24日	第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会	一般社団法人日本クラシック音楽協会	ピアノ部門 大学男子の部 入賞	ピアノ	1年生	黒木 七聖
2016年						
1月20日	第17回シヨバン国際ピアノコンクール in ASIA	シヨバン国際ピアノコンクール実行委員会	大学生部門 全国大会 奨励賞	ピアノ	1年生	黒木 七聖
3月31日	第18回“万里の長城杯”国際音楽コンクール	中国音楽理事会	ピアノ部門 大学の部 第3位	ピアノ	4年生	辻 春名
5月3日～5日	岐阜国際音楽祭コンクール	岐阜国際音楽祭実行委員会	声楽部門 大学生 第3位	声楽	4年生	戸本 明里
			声楽部門 一般I 第2位	声楽	大学院2年生	山田 知加
			声楽部門 一般I 第2位 ジャーナリスト特別賞	声楽	2008年度 修了生	辻村 文恵
			声楽部門 アマチュアコース 一般II 第3位	声楽	3年生	内堀美恵子
			ピアノ部門 一般I 第1位 岐阜市長賞、審査員特別賞	ピアノ	2014年度 修了生	岩田 晃
			ピアノ部門 一般I 第2位 文化人特別賞	ピアノ	2009年度 卒業生	高岸 由佳
			アンサンブル部門 一般I 第3位	クラリネット	2012年度 卒業生	田中 沙紀
				クラリネット	2012年度 卒業生	小崎 杏那
				ピアノ	2004年度 卒業生	十川 安里
			フルート部門 一般I 第1位	フルート	2014年度 卒業生	星野奈菜美
			フルート部門 一般I 第2位	フルート	2013年度 卒業生	佐藤 千春
			フルート部門 一般I 第3位	フルート	2015年度 卒業生	神戸 結花
			フルート部門 一般I ジャーナリスト特別賞	フルート	2014年度 卒業生	大林 清香
			クラリネット部門 大学生 第2位 ジャーナリスト特別賞	クラリネット	3年生	村田 幸菜
クラリネット部門 一般I 第1位	クラリネット	大学院2年生	丹羽 夏望			
管楽器部門 大学生 文化人特別賞	トランペット	4年生	山本 康平			
8月27日	第10回横浜国際音楽コンクール	横浜国際音楽コンクール審査委員会	ピアノ部門 大学生の部 審査員特別賞	ピアノ	1年生	浅野 佑佳
8月21日	第28回愛知県尾東音楽コンクール	瀬戸音楽協会	ピアノF部門 銀賞 瀬戸ライオンズクラブ賞	ピアノ	3年生	宅見 萌
9月14日	第4回山田貞夫音楽賞	山田貞夫音楽財団	ピアノ部門 山田貞夫音楽賞	ピアノ	2014年度 修了生	岩田 晃
10月10日	第17回大阪国際音楽コンクール	大阪国際音楽コンクール実行委員会	ピアノ部門 Age-G 第2位	ピアノ	2010年度 卒業生	高岸 由佳
12月6日	第25回日本クラシック音楽コンクール全国大会	一般社団法人日本クラシック音楽協会	ピアノ部門 大学男子の部 第4位	ピアノ	2年生	佐々木唯道
12月14日	第2回K作曲コンクール	K音楽コンクール	第3位	作曲	大学院2年生	蒔田 裕也
12月24日	第7回クオリア音楽コンクール	特定非営利活動法人コンプリオ	コンサーティスト部門 第3位	ピアノ	2年生	土屋 宗太
2017年						
2月1日	第8回東京ピアノコンクール	一般社団法人東京国際芸術協会	大学生部門 ピアノ協奏曲 優秀伴奏者賞	ピアノ	2年生	土屋 宗太

美術学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2016年						
10月20日	シェル美術賞2016	昭和シェル石油	60周年特別賞 (菅谷朝絵賞)	卒業生	洋画2コース	鈴木 浩之
12月11日	第35回富士山学生書写書道展	毎日新聞社	最優秀団体賞	—	—	書道アート
8月31日 ～9月12日	第101回二科展	公益社団法人二科会	新入選(岩彩画)	卒業生	日本画専攻	佐藤 春香
2017年						
1月25日 ～2月12日	日展	公益社団法人日展	新入選(日本画)	大学院2年生	日本画専攻	島次 逸郎
			新入選(日本画)	大学院2年生	日本画専攻	山守 良佳
			新入選(洋画)	2005年卒業生	洋画	山内 大介

デザイン学部

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2016年						
7月1日	JAGDA学生グランプリ2016	公益社団法人 日本グラフィック協会	入選	4年生	メディアコミュニケーション デザイン	須川 美里
			入選	3年生	ヴィジュアルデザイン	森川 陽加
10月4日 ～9日	日本グラフィック協会 JAGDA サンデースクール作品展	公益社団法人 日本グラフィック協会	入選	3年生	ヴィジュアルデザイン	種田 美里
10月21日	ジャパン・テキスタイル・ コンテスト2016	ジャパン・テキスタイル・ コンテスト開催委員会	スプラウト賞	3年生	テキスタイルデザイン	新美 汐里
11月19日	第2回学生住宅 デザインコンテスト	毎日新聞社	審査員特別賞	4年生	スペースデザイン	田口沙也加
				4年生	スペースデザイン	村松 希紗
11月23日	第7回ポスターグランプリ	愛知県印刷工業組合、 岐阜県印刷工業組合、 三重県印刷工業組合、 石川県印刷工業組合、 富山県印刷工業組合、 愛知県印刷協同組合	石川県印刷工業 組合理事長賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	種田 美里
			国際紙パルプ 商事(株)賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	土松 由依
			(株)ナプス賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	馬 暁娜
			東洋インキ(株)賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	服部 葵
			日本紙パルプ 商事(株)賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	城 泉水
			富士ゼロックス(株)賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	野々山美海
			セントラル画材(株)賞	3年生	ヴィジュアルデザイン	横森 友希
			入選	3年生	ヴィジュアルデザイン	鈴木 結万
			入選	3年生	ヴィジュアルデザイン	田口佳世子
			入選	3年生	ヴィジュアルデザイン	保利みちる

後援会補助公開講座実施報告

美術学部

集団表現『ア"ーッ!ラジオ』の魅力

2009年から毎年、名古屋芸術大学後援会から助成を受けて三日間限定FMラジオの番組を放送してきました。この活動は“文化を作ろう!”をメッセージに、集団表現の可能性を問うものとしてラジオを媒体に洋画2コース教員と学生達有志で発信・運営しています。一つの活動が終了すると消える『仮設』一構想領域研究室一を母体として、毎年、異なったテーマで番組を構成し、そのテーマに相応しいゲスト達を招いて、数種のチームで番組作りを行います。

「ア"ーッ!ラジオ」の活動も今回で8度目。途中の2013年度から名古屋芸術大学美術学部事業に格上げされたこのラジオ活動がこの地域の中でプラットフォーム的な役割を果たしてきていることを実感しています。参加した学生有志や我々関係者達も学内にいるだけでは想像出来ないような思いもよらない多種多様な文化に触れたり、他の分野の方々との出会いや交流によって社会との距離が身近に

感じたりするのもこの活動の教育効果とも言えます。本学のバックアップのもとに内容も深くなってきた昨今の活動ですが、これからもリスナーとの絆を大切にしながらより多くの聴視者とアートの繋がりを持っていきたいものです。



名古屋芸術大学Art&Design
Centerに設置されたスタジオ。
(撮影：伊藤真)



丸山ゴンザレス氏をゲストに招いた番組を放送中。
(撮影：藤井昌美)

後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

毎年秋、 常滑フィールド・トリップ開催

2016年夏、展覧会の会場準備が始まった。広い常滑工房にあるさまざまな古い道具、材料を分類し整理した。展示に使うガラス戸、板戸を一ヶ所に集め、焼き物の道具、ロクロ、作業台を窯と共に使いやすく整理した。OB浅井君はその場所で手に入れた「余ったもの」を使って制作している。たくさんあった古い事務用スチール家具、引き出し類は伸しイカのようになった。数日間でゴミの山がで大量に捨てに行った。



下村さんの古い民家では、デザインチームU(代表SDコース内田)たちが、夏のワークショップの準備中、庭の草取りや裏の崖の伸びた竹や灌木などを刈り取った。竹はワークショップの材料に残し、その他を下村さんの軽トラック一杯にして、ゴミ捨てに。それぞれの会場に動きが出て来た。10年程前『常滑アート&デザイン工場「利助 三信 佐平治」』という企画展をやった。「利助」とは、大学の工房、隣の「ウナギの中村屋」(陶芸コース吉川先生の昔のアトリエ)、ギャラリー「r i n'」が使っている元工場の屋号である。

「三信、佐平治」なども別の元工場で、60メートルもあるような空間に、たくさんのアーティスト、県芸、造形、淑徳、学芸大学の学生が集まり、作品制作した。参加していた当時名芸教員だった池川さんが、展覧会は掃除から始まるが、これが大事と言った。たくさんの中古家具を図鑑から切り抜いていた渡辺さんは、掃除が終わってもホコリと土が残る床をきれいに拭き、木目が現れた所に何百匹と並べた。

翌年からフィールド・トリップがスタートし、木造の「旧常滑市役所」、「大正館」「伊奈組事務所」「平岩商店」「旧北保育園」商店街の空き店舗、空き部屋、空き地などを使い、作品制作した。まさにインターカレッジの展覧会。見学に来る人々は、散歩し町の風景を楽しみ、作品に触れた。会場にいると外を歩く観光客の声も聞こえてくる。「NAGOYA GEIYUTSU DAIGAKU? ナ、ゴ、ヤ ゲイ、ジュ ツ、ダイ、ガクと書いてあると」。観光で来た卒業生のお父さんが偶然寄られ、名芸初期OGの吉田さんとも初めて会った。翌月から現代いけばなの展覧会をここで開催するという。(フィールド・トリップは名古屋芸大後援会、常滑市からの補助プロジェクト)

デザイン学部 教授 平田哲生

後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部

講演テーマ 「対話的保育カリキュラムとその実践 —保育者と子どもが織りなすステキな保育—」 講師 加藤繁美氏

人間発達学部では、2016年9月24日土曜日に、ウィルあいち(愛知県女性総合センター)にて、山梨大学教育学部・大学院 教育学研究科教授 加藤繁美氏を講師にお招きして、特別公開講座を開催した。「対話」ということにこだわりながら、いくつかの実践記録をふまえて話があった。

初めに、2年前に岩手県で起きたいじめ自殺事件を取り上げて、中学生の「生活ノート」に教師が書いた返事の「ずれ」が、彼に絶望のようなものを与えてしまったと指摘する。「対話」というのは、心と対話するものなので、文章と文章が書き綴られれば良いというものではな

い。そして、口頭詩採集運動という保育実践について、さらには絵本「ブタの種」の実践について話があった。

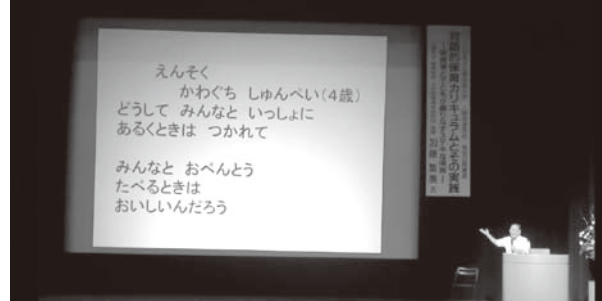
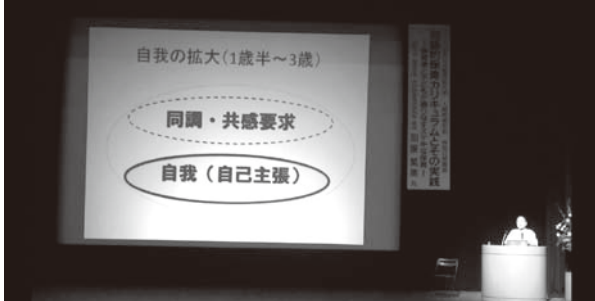
子どもの声の中には「自分の声をもっと大切にしよう」というメッセージがある。子どもの声を丁寧に聞き取り、子どもの声を正當に評価する、そのような保育を突き詰めていきたいという思いが心に深く伝わってきた。

講演会の参加者は、一般の方が318名、学生が203名だった。講演後の意見や感想に、1年目で日々あまりゆとりが持てていないのですが、月曜日から子どもたちの声を聞くことが楽しみになりました。子どもと対話でき

るよう、自分の保育者としての質を高められるよう努力していきたいと感じました(一般)。対話という言葉聞き、意味を考え、知り、大人と子どもの対話だけでなく、大人同士、人間同士で対話をしていくのが基本になったら、優しい社会になると思った。子どもと関係す

る職業に就いたら、向き合わないということや、知らない振りとかは責任があるからできないし、してはいけないと思った(学生)。など、有意義な学習の場となった。

こども発達学科 准教授 久保 博満



親の想い

デザイン学部 デザイン学科 4年 母 三浦真由美

昆虫好き三兄弟の末っ子、三男。だが一人だけ違ったのは、幼少よりなぜかきれいな色のクレヨンが大好き。小学生の時の入選をきっかけに何度も賞をいただき、高校二年生には「各務原市さくら祭り」の写真展にて優秀賞をいただき美術への道のりを確信したのでしょう。又、小学校一年生時に母の勤務先会社の大イベントで大勢の人間の前で堂々と作文発表した時には、大人しいと思っていた我が子を見てびっくりさせた一面もありました。何故か大舞台に出るチャンスが多い。カメラ好きの兄と旅行に行きスケッチをすときれいな色彩感覚、なんて自然な表現なんだろうと感動したのは上高地へ行った時である。必然と入っていった美術の世界なんだろう。教員であり油絵作家の叔父、公務員でありながらアトリエを自宅に持つ従兄、血筋なのだろうかとか改めて思い感じていた。自分の世界をいつのまにか持ち、こだわりを持って表現出来る場所として美術にいきました。言葉少ない三男にとっては、自分の意思を表現する都合の場所である。兄達は機械工学やメディアデザイン(報道・マスコミ)などの大学だった為、現況を掌握するのが簡単であった。美術は昔より独特の世界観が有り、親として理解し助言するのは困難であった。自分自身の感性のみで学び知識を得るのは大変であろう。提出物などがあると良いデザインが浮かばず、夜中から朝まで徹夜をしている様子を襖の影から見ていた。何か言いたい助言したいが我慢も親の努め。毎日、相談に来るのを待っていたが自分自身で乗り越えたのだろう。日々これが成長の証だったのか。教員免許を取得時に「生徒達に表現の楽しさを伝えたい」と言っていた。今、うまく自分の気持ちを表現できない子供達が多い中、絵の中からその子の環境や心を読み取れる仕事がしたいと言っている。美術とは一生勉強の世界であると思う。祖母より「百聞は一見に如かず」の諺通り将来の糧となる感性を磨いてほしい。自分に自信を持ち挑戦して前進してみよう。親は全力で応援します。

人間発達学部 子ども発達学科 4年 父 平井 友明

私は息子がどんな夢を持っているのかわかりませんでした。高校生の時、「幼稚園の先生になりたいから名古屋芸術大学を志望する」という話を聞き大変驚きました。

息子は以前から子供の相手をするのが好きで楽しそうにしていると感じていましたが、先生になる夢を持っているとは思ってもみませんでした。

また、名古屋芸術大学には人間発達学部があり、保育士や幼稚園の先生を目指す学部があることを知り、自分の夢をかなえるためよく調査して志望校を決めたことに安心しました。

そこまで自分の将来を考え、志望する大学に入学すれば、親の出る幕はもう無いものと思っていましたが、私自身も後援会の総会に出席し、どのような大学なのかもっと知ってみたいと思い、後援会に関わらせていただくことにしました。

学生生活では理想と現実の狭間で自分なりに悩みもあると思います。またアルバイトなどで頑張り過ぎて学業に影響を及ぼしているのではと感じることもあります。息子から私に相談をしてくれることはない、親としてどうしていいのかわかりませんでした。

そんな時、後援会のおかげで大学に行く機会ができ、先生方に大学での様子を聞くことができました。先生方はとても親身になって考えてくれていました。また、後援会の先輩の皆様からにも相談にのっていただくこともあり、後援会を通じて色々なことを経験させて頂き、入って良かったと感じることがたくさんありました。

これまでの勉強や経験によって息子は入学時より成長し、「幼稚園の先生になる」という夢に向かってより努力を重ねて欲しいと思います。

親としても後援会活動を通して、応援していきたいと思っております。

子の想い

音楽学部 音楽総合コース 2年 野々山陽子

音楽総合コースに進学して早くも二年が経とうとしています。何も分からずに選択したこのコースですが、今はとても充実した学生生活を送っています。

特に今年度は、電子オルガン、ピアノ、ヴァイオリンの演奏やアートマネジメントなど、盛り沢山に自分のやりたいことができたと思います。

電子オルガンでは、ソロ演奏はもちろん、ヴォーカルの先輩との共演や、定期演奏会の司会などの機会もいただきました。中でも印象に残ったのは、普段共演することのないサクソフォンオーケストラとの共演です。このコンサートでは充実した電子オルガンのヒューマンヴォイスの音色を駆使して、第九の合唱パートを楽器で表現するという大変興味深い演奏を行うことができました。

ヴァイオリンでは、特別にオーケストラの授業にも参加させていただき、憧れの愛知芸術文化劇場のコンサートホールという大舞台に立つことができましたし、室内楽のタペでのアンサンブルの楽しさも味わうことができました。もちろん専科で研鑽を積んでいる先輩方に比べればまだまだ課題も多いなと痛感しましたが…。

演奏以外ではアートマネジメントの授業で幼稚園での実習や、夏に行われた宗次ホール主催「くらしの中にクラシックコンテスト」にてプレゼンをし、三位入賞を果たしました。来る三月にはこのプレゼンが実際に宗次ホールで行われることになり、現在もそのコンサートを成功させるべく演出や、PRの仕方など試行錯誤を重ねているところです。

入学した時にはまさか、こんなに幅広い分野が学べるとは思っていませんでしたし、音楽の幅が広がると同時に人間関係の幅も広がりとても勉強になっています。

このような機会に恵まれていることに感謝し、大学生活後半も有意義に過ごしたいと思います。

デザイン学部 3年 種田 美里

大学生活三年間が過ぎ、学生でいられる期間は残りあと一年となりました。四年生は一瞬で過ぎる、と先輩に言われ、ドキドキしながら春休みを過ごしている現在です。

この三年間で、私は学内外問わず様々なことに参加してきました。一年時には他校の学生とともに行われている素描のグループ展に出展したり、二年時はコンペティションを企画している学生団体の運営として活動したり、三年時には、大学の同コースの友人たちとグループ展をしたり、学内でのウエディングの企画の運営をしたり、学外でのポートフォリオ(作品集)の展示の運営をしたりと、文字にしてみると改めて色々やってきたな、と思います。

元々、ただただ絵を描くことが好きだったから、という理由でデザインを学ぼうと思い、デザイン学部に入りました。日々制作している中で、デザインをやるには自分は向いていないな、と思い悩むことも多々あります。ですが、作ることはやめられないし、デザインというのは何か物を作ることだけがデザインではないと思っています。三年間様々な活動をしてきた中で、物を作る以外にも、イベントを企画したり運営をすることによってデザインの中の一部だと思えるようになりました。そう思うようになったことや、様々な人と関わり一緒に何かをする喜びを感じたことは、自分にとってかけがえのないものです。

美大生は、課題に追われる毎日ではありますが、その中でも自分のやりたいことを目一杯やったり、学内外問わず様々な企画に参加をしたり、いろんなことに挑戦していくことはとてもいい経験になります。残り少ない学生生活ですが、思い切りやりたいことをやって過ごしていきたいと思います。

私が就職内定をもらうまで



ただ前に向かって

音楽学部 音楽文化創造学科
アートマネジメントコース
4年 久野麻由里

私が就職活動を始めた3年生の3月には、「4年生の秋頃までには内定が欲しい、内定が決まればどこでもいい」と考えるほど就きたいと思う業界はぼんやりとしており、将来のビジョンはありませんでした。何をどうすれば良いのか分からないまま、とりえず合同説明会に参加しまし

た。できるだけ多くの企業を知ろうと思い、業界は選ばず、時間の許す限り多くの出展企業へ足を運びました。何も分からない私にとって「企業を知る」ということは大切なことでした。

合同説明会に参加した後、自分の中に働きたいと思う条件があることに気付きました。まだ漠然とした考えではありましたが、就職情報サイトを利用し、条件に当てはまる企業へエントリーをしました。説明会や面接試験を受ける中で、次第に「自分が何をしたいのか」、「どのような人間でありたいのか」、そして「今の自分はどのような人間であるのか」を意識するようになりました。その中で、地元へ貢献し続けることが出来る仕事がしたいと思い始め、古くか

らある地元のケーブルテレビ局の試験を受け、無事内定を頂きました。

最終面接まで進んだとしても、そこから良いご縁に繋がる企業は多くありません。むしろ一次試験で終了する企業の方が多くと思います。悪い結果が何度も続くと心が折れて、不安が積み重なり、自信がなくなることもあります。

是非、沢山悩んでください。受験のように勉強すれば合格できるわけではありません。自分の魅力を自分でPRしなければ、相手は選んではくれません。だからと言って偽りを装い良く見せてもいけません。辛く苦しく大変なことの方が多くですが、大きく成長できるチャンスです。悔いの残らないように前に向かって挑戦してみてください。

気持ちを切り替えて

美術学部 美術学科
日本画コース 4年 土屋実生

私は就職活動を3年生の3月あたりから始めました。この時期から始めたのは、なるべく早い段階から就職に向けて気持ちを切り替えるため、4年生になると教育実習が始まり就職活動のことについて考えられなくなると思ったからです。

始めたばかりの頃は、絵を描く立場として「絵に関係していることだったらなんでもいい」という「自分のしたい事」が曖昧な状態で、周りの雰囲気流されて活動していたため、何を見るべきなのか分からず、会社説明会に参加しても体力を消耗するだけで何も得られませんでした。自分と向き合って納得出来るまで、やりたいことを考えることが必要で、私はそれが出来ていなかったと思います。

いくつかの会社説明会に行きましたが、面接を受けたのは2社です。周り比べると少ないように思えますが、入社後に入ってからの自分のなりたい未来の姿が明確だったのがその2社でした。多くの会社を一度に受けることも一つの方法だと思いますが、私の性格上、多くのことを同時に考えるのは難しいと思い一つ一つ真剣に向き合って考えられるようになりました。ただ、少ないと落ちた時の痛手は大きいです。最初に受けた会社は落ちてしまいとても落ち

込んだことを覚えています。しかし、周りは自分がショックから立ち直るのを待つはくれません。失敗を引きずっていると、友達は内定もらっている人が増え、入りたい企業は募集が終わっているなど不安と焦りがたまり自分が壊れてしまって何も出来なくなります。そうならないためにも、失敗したことを深く考えすぎず、この会社に通らなければ死ぬという訳でもないし、やり直しが出来ると思い気持ちを切り替えるようにしていました。

内定を頂けた会社の面接では、自分が会社に入ったら何をしたいのかという内容プレゼンをすることでした。特別なことはしていません。会社に入った自分を想像して分かりやすくまとめ、聞かれたことには自分の考えをしっかりと伝え、相手の目を見て話す、笑う、相槌を打つなど人と話すときに大切なことを忘れないように心がけました。面接が終わった後、面接に対しての評価がありました。その内容から、重要なのは初対面の人と目を合わせる事、テンプレートに沿った内容を話すのではなく、臨機応変に自分の言葉で話すことだと思います。

会社のことを調べ、同じ業種の会社との違いを比べるということも大切ですが、なぜその業種をしたいのか、その業種について自分の考える良い点と悪い点、その改善方法は何かなどをしっかりと考えることも必要です。

最後に、就職活動だから、特別なことをしなければいけないという訳ではなく日々の積み重ねが大切だと思います。気持ちを切り替えて頑張ってください。



やりたいことを するために やるべきこと

デザイン学部 デザイン学科
メディアコミュニケーションデザインコース
4年 牧野隼也

私が就職活動を通してやったことは、大きく分けて二つあります。それは、何が起きるかを考えて準備することと、必要な時に動くことです。

私の就職活動は四年生の四月の頭という早い段階で終了しました。実際に企業と初めて面接を行ったのが二月の末

なので、そう考えると一ヶ月強ほどの期間で就活を終えることができました。しかし、それはあくまでも「就活」の期間です。私はその期間に入る前に、五ヶ月ほどの「就職活動するための準備期間」を作り、就活に備えました。

三年生の後期、私は就活について漠然とした不安と面倒くささを感じるだけで、何もせずにいました。転職となったのは学内で行われた先輩の就活体験を聞く就活セミナーです。先輩の体験談は生々しく、より一層不安を感じるようになりました。しかし、同時に私は焦りを覚え、それが行動を起こすきっかけになったことは、今思い返せば良かったと思います。

もうそろそろ動かなければ、と思った私は、志望する業界も分からないようなまっさらな状態から少しずつ準備を始めました。まずは自己分析をして、自分のしたいことや、

向き不向きを言語化しました。私のしたいことはwebの分野にあり、ウェブデザイナーになりたいと思うようになったのもこの頃です。この頃はまだwebに関する技術や知識もなく、ゼロから勉強を始めました。企業の面接や試験でwebデザインを見せる機会が後々訪れると考えたからです。

どうにかwebサイトが作れるようになった十二月頃、友人からある就活イベントの誘いがありました。「逆求人」と呼ばれるイベントで、その名の通り、複数集まった生徒の中から、多数の企業が自身の会社に来て欲しい人材を選ぶというものでした。

私はこれはチャンスだと思いました。イベントでは私の行きたいweb業界も多数の企業が参加することが分かり、ここで決めようという気持ちが高まりました。私は、逆求人では自分の強みが、いかにその企業にマッチするかが企業側の選ぶポイントだと思い、説明の流れの中で自分の強みを訴える構成のポートフォリオを作成しました。

例えばwebデザインをする際には、サイトを利用するユーザーの視点から逆算し、どうしたらサイトの目的が達成できるかを考えながらデザインするということを強みとし、それを説明しました。

また、対面しての面接の練習も大事でした。大学の事務の方と三度面談の模擬練習を入れました。面談では思いもよらないことを聞かれます。大切なのは面接する前に、自分の考えを文字にして、頭の中を整理しておくことです。整理しておくこと話の道筋をその場で作ったり、話の軸がぶれていても修正ができます。何より冷静でいられることは、面談という慣れない場において大事なことです。

こういった準備のおかげで、私は比較的早く内定をいただくことができました。

ポートフォリオの作成にせよ、面談の対策にせよ、大事なのはどんなことを伝えれば企業が採用してくれるのか予測し、準備することです。

そしてそのためには自分の考えを整理し、行動する必要があります。就職活動ではスタートを早く切れれば切るほど有利です。

何が起きるかを予測し、準備することを面倒くさながらずに行動に移して試してみることが、いい就職活動の近道だと思います。

(株式会社カクコム 内定)



周りの人に 感謝を忘れず、 自分自身を信じて

人間発達学部 子ども発達学科
4年 栗木悠未佳

私の就職活動は、大学4年生の5月からになります。また、公務員対策の東京アカデミーの講座を含めると、大学3年生の夏頃からです。

具体的には、友人らと、私立の保育園や幼稚園の合同説明会に足を運んだり、公務員試験を受けたり、という流れでした。

元々、公務員の保育職が第一希望だった私ですが、「私なんかを受からない」と内心思いながら、就職活動に入りました。

そんな中、きっかけを作ってくれたのは、大学の先生方でした。先生方から沢山の公務員試験対策のテキストを頂きました。そのテキストを使いながら、友人らと共に勉強を行って行く中で「やっぱり保育士になりたい」という強い思いが蘇ってきたのです。また、教職という同じ道を目指している幼馴染が一生懸命勉強やボランティア活動に打ち込んでいる姿を見て、自分も頑張ろう、と思うようになりました。その為、友人に勉強を教えてもらい、必死に公務員試験対策の勉強に取り組むようになりました。

また、大学1年生から保育関係のボランティアに積極的

に参加をし、経験を積んでいましたが、就職活動が始まる前に、更に保育力を磨きたいと思った為、大学4年生に進級すると同時に、週に2日公立の保育園でボランティアを始めました。

夏休み中は、大学の先生方の研究室や学生支援課にほぼ毎日通いました。ピアノの弾き歌いや実技試験の様子を見てもらい、アドバイスを頂き、苦手な部分を徹底的に練習しました。

そうして挑んだ試験ですが、最後は「その人の内面」だと私は思うのです。その為、試験中「笑顔」を常に心掛けました。また、「自分はここに受かる」という熱い思いが大切だと思います。その為、実技が失敗しても人柄を見てもらおう、と思いながら試験に臨みました。

毎回、結果が出るまでの数週間は本当に長く、精神的に不安定になって泣いてしまうこともありましたが、しかし、合格通知が届いた日、私よりも本当に嬉しそうな顔をして「おめでとう」と言ってくれた皆の顔を、私は忘れないと思います。

最後に、人にはそれぞれ個性があります。その良さをいかに試験で出していけるか、ではないでしょうか。また、長くて苦しい就職活動ですが、ふと周りを見れば応援してくれる人、共に頑張っている人がいます。その人たちに感謝をしながら、共に切磋琢磨し、自分の良さをアピールして頑張れば、その努力は無駄にならず、結果に繋がるのだと思いました。どうか後悔のないよう、自分自身を信じて頑張ってください。

第27回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学講座は今年で27回目を迎え、東西キャンパス合わせて18講座を開講しました。昨年度まで引き続き実施してきた水彩画、木彫、カホン、オカリナ、イラストレーターなどの講座に加え、「しなやかなカラダをつくるストレッチング&呼吸法」などの新たな講座を開設し、大好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においては、「いきいき楽しい健康セミナー～元気な声&からだづくり～」の講座を開設し、40名の方に受講していただきました。

今後も幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設に努めてまいります。2017年度の講座につきましては、6月中旬頃にご案内する予定です。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

■お問い合わせ

名古屋芸術大学生涯学習センター
TEL：0568-24-0359



こども造形と形遊び



パソコンを使って楽譜を読めるようになろう

2016年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

キャンパス	講座コード	講座名	受講者数
東	M-02	はじめてのオカリナ ～オカリナで奏でる心の歌～	11
	M-03	みんなでチャレンジ!楽しいオカリナアンサンブル	7
	M-04	ラテンのリズムで楽しく演奏『Cajon カホン』	6
	M-06	健康な声をつくるヴォイス・コンディショニング	6
	M-07	しなやかなカラダをつくるストレッチング&呼吸法	8
	M-08	オペラ演技を学ぶ	6
	M-09	パソコンを使いながら、楽譜を読めるようになろう! ～楽典の基礎とアレンジも学べる～	6
	H-01	保育先進国の保育政策・内容に学び、日本の保育を考える	11
	H-04	Web検索の仕組みとWordでオリジナル年賀状作成	8
西	B-01	美しい水彩画Ⅶ ～爽秋の林、野辺、花、秋を描く～	25
	B-03	脱線しても気にしない日本画講座（曲者歓迎）	9
	B-04	初心者のための墨彩画	12
	B-07	木彫を楽しむ partⅧⅧ	12
	B-09	粘土による自由な造形 ～テラコッタ～	6
	D-01	小説家になるための小説創作講座	14
	D-02	「基礎の基礎!イラストレーターとフォトショップ」	9
	D-03	誰でもできる、オリジナル ジュエリー講座	8
	D-04	織物をたのしむ ～リジット機を使って～	6
	D-05	こども造形と形遊び 「和久洋三が提唱する(和久メゾット)創造共育」幼児・小学生	9
	D-06	創作メダル講座	5
合計27講座			184

2016年度 名古屋市大学連携講座

日程	講座名	受講者数
6月6日 ～8月8日	いきいき楽しい健康セミナー ～元気な声&からだづくり～	40

2016年度 名古屋市シリーズ講座

日程	講座名	受講者数
6月30日	研究最前線!大学の知を学ぶ あいだをつなぐ音楽 ～音楽ケア・音楽療法の実践の現在～	114



脱線しても気にしない日本画講座



みんなでチャレンジ!楽しいオカリナアンサンブル

名古屋芸術大学音楽学部 第44回卒業演奏会

2017年3月9日(木)三井住友海上しらかわホールにて本学、音楽学部第44回卒業演奏会が17時より行われました。本年度は声楽5名、ピアノ4名、管打楽器5名、電子オルガン2名の計16名が4年間の集大成となる演奏を披露しました。

学部生は技巧的な部分に焦点を置き練習しがちですが、本日は音楽的に優れた演奏も見受けられたのは嬉しく思いました。

また、今年度は男子学生の活躍も目覚ましく、声楽コースにおいてはここ数年間、女性陣におされ男子学生が上位にくい込むことが出来ていませんでしたが、今年度はテノールが首位を獲得し、日本歌曲からオペラのアリアまで幅広いレパートリーを歌い上げました。

卒業後は、進学する者・留学する者様々な進路があると思いますが、諸事情により音楽から離れなくてはいけない者中にはいると思います。すべての卒業生が、この4年間の思いを胸に、これからも音楽を愛し続けてほしいと願っています。

音楽学部長 竹内雅一



名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第19回修了演奏会

2017年3月3日(金)三井住友海上しらかわホールにて本学、大学院音楽研究科第19回修了演奏会が17時30分より行われました。昨年より30分早い開演でしたが、熱心なお客様も多く、開演時より多くのお客様にご来場いただきました。

本年度は声楽2名、ピアノ2名、弦楽器1名、管楽器2名、作曲1名の計8名が2年間の集大成となる演奏を披露しました。ヴェルディ、ドヴォルザーク、シューマンなどの定番の作曲家に加え、グリエールといった普段あまり耳にしない作曲家の作品もあり、大いに楽しむことが出来ました。また、存命のベルギーの作曲家であるプロッセと本学学生が、どちらもクラリネットをフィーチャーしている点はとても興味深いものがありました。

既にプロとして認められる実力をを持った修了生も見受けられますが、この演奏会を終着点とせず、今後皆さんがより一層の活躍をしていくことを祈っています。

音楽研究科長 竹内雅一



名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 第44回卒業制作展

2017年2月21日(火)～2月26日(日)愛知県美術館ギャラリー、名古屋市民ギャラリー矢田、名古屋芸術大学西キャンパスA&Dセンターにおいて美術学部、デザイン学部の卒業制作展が開催されました。

会場全体が若々しく質の高い作品で活気にあふれており、部屋ごとにコースの特徴が楽しめる構成は本学の美術デザインの幅の広さも伺える良い機会となりました。

また会期中それぞれのコース講評会もあり、学生達の練り上げてきた作品のプレゼンテーションにゲスト講師の厳しくも愛情に満ちた熱い意見が飛び交う会場では学生達の真剣な表情が印象的でした。

恒例となった会場を巡るスタンプラリーも好評で、多くの来場者を迎えることができました。

ご来場いただいた方々には学生達の4年間の研鑽を重ねた表現の成果を十分に感じていただけたと思います。卒業後もモノを創る喜びを力に活躍し続けて欲しいと思います。

卒業制作展委員長 准教授 荒木紀江



名古屋芸術大学大学院美術研究科 第21回修了制作展

第21回目の大学院美術研究科修了展が、名古屋市民ギャラリー矢田にて2月28日～3月5日に開催されました。今年度、美術研究科は日本画制作研究2名、洋画制作研究1名、工芸(ガラス)制作研究1名、同時代表現研究6名、計10名が出展しました。学部4年間と大学院2年間の計6年間の集大成として見応えのある作品展覧会となりました。また、同時代表現研究では2月28日にはトーキョーワンダーサイトの館長の今村有策氏による特別講評会が行なわれました。大学院で習得した研究が一段と高度に昇華したことで、修了後は社会に向かって、大きく強いメッセージを発することに繋がるでしょう。今後も社会と自分がどのように関わっていくのかを深慮、考察しながら、その可能性を求めて研究を続けてほしいと願います。

美術研究科長 教授 須田真弘



名古屋芸術大学大学院デザイン研究科 修了展



2月28日から矢田市民ギャラリーで開催された大学院修了制作展に3名のデザイン研究科生3名が出品した。3Dデザイン研究の南角昌輝さんは、災害時避難生活をおくる際に、多くの人々が同じ場所で生活を共にするが、睡眠時や着替えなど個人がプライバシーを守れるようにと考えられた折りたたみ式で付属のバックに収納できる『iima 避難生活用個人シェルター』を制作した。カーデザイナーを目指していた南角さんは株式会社デンソーに就職が決まっており学生時代最後の作品はカーデザインではないプロダクト製品の提案をしたということの研究の幅を広げた。ライフスタイルデザイン研究の戴 葉舟さんは中国からの留学生で2年間を通じて『日中両国テレビ 公共広告についての比較分析』に取り組んだ。メディアデザイン研究の鈴木 貴大さんは『街で、見つける』という日常に向けられた独自の視点で制作された写真集と、『探す』ことをテーマにしたインタラクティブメディアの映像作品を展示した。

大きく変化する時代の中で、名芸での6年間又は2年間、また彼らの人生で積み上げてきた自らの視点を見失わないよう制作研究を続けてきた成果をこの修了展で展示することができた。今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 教授 櫃田珠実

2016年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告



研修旅行に初めて参加した。工程表の金沢21世紀美術館と九谷焼美術館の見学に興味を惹かれたからだ。

今年美術学部入学した娘と共通の話題で会話ができるかもしれないという期待もあった。

金沢美術館では工芸とデザインの境目の企画展を見学した。竹ひご製のざるが工芸的ならば、樹脂製の成型された器は工業製品（デザイン）というわけだ。自動車までもが工芸品のなかにも組み込まれていた。イタリア製の世代の異なる同名の車が並んでいた。レクサスの隣のスバル360は工芸品に見えるよね！？ということだ。

深さ10cmのプールの屋根のオブジェ、窓枠でできた家など一般の美術館とは異なる見学ができた。

忘れられないのが、名芸出身の作家が描いた慶応大学の校舎だ。繊細な線と点描画で白黒で描かれた作品はまるで超極細の版画のようであった。作者本人にもお会いできて、最後はバスを見送っていただいた。娘の先輩なんだと誇らしく思った。

九谷焼美術館ではカラフルな色彩、赤色主体の壺や食器、乳白色の真珠のような色合いの壺などの作品を見学した。説明員の話術に聴きほれながら1時間弱の江戸時代からの陶芸の世界を散策させてもらった。緑、黄色、赤&青で色で描かれた食器はの上のにせる料理にもそれに見合った気品と色彩を要求する話、当時日本人には見向きもされなかった乳白色の食器がニューヨーク万博で金賞を取るや一躍脚光を浴びる話、そして昔の芸術家の目は中国を師としそこを向いていた話には印象深いものだった。

旅行のもう一つの楽しみは夕食と懇親会である。私のような初参加者と先輩役員や大学教職員との顔合わせと親睦の場だ。ほろ酔い気分のなかで、自己紹介や子どもも情報交換を通じて自然と仲間意識が芽生えた。

研修旅行の目的の一つはこれかと思いつつ、では後援会の目的って何だろう？と自問した。その答えは少し温かめの山中温泉での野外風呂のなかで答えを見いだせたような気がした。今後の役員会議でその答え合わせをしていきたいと思いながら研修旅行は無事終了した。

事業委員長 山内正春



名古屋芸術大学・大学院後援会会則

第1条 本会は名古屋芸術大学・大学院後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。

第2条 本会は名古屋芸術大学・大学院の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。

第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
- (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
- (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。

第4条 本会は名古屋芸術大学・大学院学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。

第5条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名

第6条 本会の役員選出は次の方法による。

- (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
- (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
- (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。

第7条 本会役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
- (2) 監事は会務を監査する。
- (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。

第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。

第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。

第10条 総会は次の事項を審議・決定する。

- (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関する事。
- (2) 会則の改定、会の解散に関する事。
- (3) 役員の選出、その他の役員が必要と認めた事項。

第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。

第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。

第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。

- (1) 総務委員会
- (2) 事業委員会
- (3) 広報委員会

第14条 委員会に、委員長1名、副委員長2名および委員若干名をおく。

- 2 委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は委員会の同意を得て会長が指名する。

第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。

第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。大学院生は年額10,000円とする。

第17条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。

第18条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

- 附則
- 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 - 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 - 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
 - 4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
 - 5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。

名古屋芸術大学・大学院後援会 弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員の上親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、平成18年6月1日より施行する。

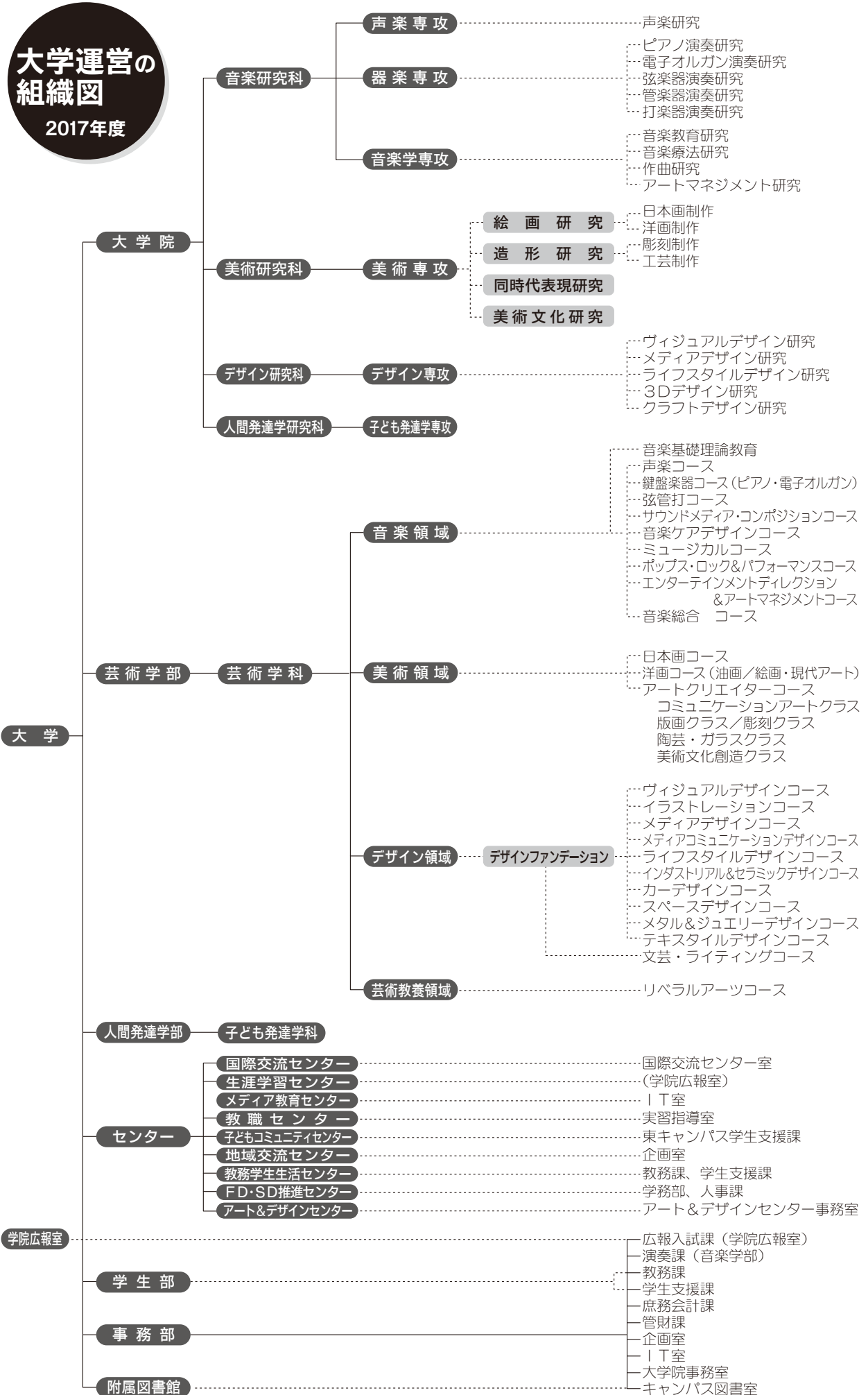
名古屋芸術大学・大学院後援会 顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学・大学院の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は平成17年4月1日から適用する。

大学運営の組織図

2017年度



「せせらぎ合唱団」団員募集

この「せせらぎ合唱団」は、名古屋芸術大学の後援会の父兄の中から、合唱の好きな人達が集まって出来たサークルです。

絵画サークル「壁の華」より数年後にスタートして18年になります。今では両方の会に入っている方もあります。

せせらぎは、小川の流れる音の様に一人の声は小さく弱いです。でも、仲間の声を聞き合わせるとハーモニーができ、楽しく気持ちが浮き立ってきます。最近では発声練習と共に中学校の音楽の時間に歌ったことのある「エーデルワイス」や「雪の降る街を」を歌っています。またNHKの朝ドラ「あさが来た」でお馴染みの「365日の紙飛行機」を混声3部合唱で練習しています。

毎月第3土曜日の午後1時から2時30分まで、4号館の3階のオペラ教室で山田正丈先生と江端智哉先生に発声の仕方から親切に教えてもらっています。

声を出すことで健康を実感できるこのサークルへ、是非とも仲間に加わってください。お待ちしております。

〈問い合わせ先〉

会 長

長江政則

〒480-1214 瀬戸市上品野町927番地

電話：0561-41-1655 携帯：080-3621-7706

副会長

千石智子

〒488-0863 尾張旭市城前町上大遊4084-6

電話：0561-53-4222 携帯：090-8469-4324



絵画グループ 壁の華 会員募集

私たちの絵画グループ壁の華は名古屋芸術大学後援会の有志により活動を続けております。

毎月一回大学の先生方により懇切丁寧な指導を頂き、初心者の方も無理なく自然に壁の華の一員になる事が出来ます。

今年で第23回の展覧会を、名古屋市民ギャラリーで開催致します。

他にスケッチ会、鑑賞会等会員の交流が深まり、生活に潤いが生まれ楽しくなると思っています。

壁の華の会員は新しい仲間を待っています。

【活動状況】

1、月例会(月額会費：1,000円)

日 時：毎月第三日曜日午後2時～4時

場 所：名芸大西キャンパス

2、グループ展(22回継続中)

日 時：毎年5月上旬(一週間展示)

場 所：名古屋市民ギャラリー 7F

3、スケッチ会 11月予定

4、日展、二科展、国画展の鑑賞会

〈問い合わせ先〉

会 長

宇佐見 誠也

〒489-0874 瀬戸市幡野町580

電話：0561-21-4567 携帯：090-7305-8205

運営委員長

森部 みや子

〒492-8075 稲沢市下津町西下町58

電話：0587-32-2814 携帯：090-1825-1671



編集後記

皆様ご存知の通り、名芸は今年、全く新しいステージに立とうとしています。このような変革の時、後援会報第62号は、特別な趣のあるものとなりました。皆様はきっと、今回の紙面から、新しい挑戦への希望や、強い意気込みを感じられた事でしょう。同時に、ただそれだけではなく、名芸が長い歴史の中で培ってきた確かな伝統、大きな根の様なものを感じて頂けたのではないかと思います。おりしも昨年末、「この世界の片隅に」という映画が公開されました。私にはこの映画の成功が、まるで名芸の生徒達の超絶的な躍進を暗示しているように感じられてなりません。具体的には書きませんが、この映画の製作過程において、クロスオーバーによる新しい挑戦と化学変化が、この作品にとてつもない質量を与えています。きっと近い将来、名芸の生徒達、あるいは卒業生が、「この世界の片隅に」を超える作品を、私達に見せてくれると信じています。

広報委員長 佐藤耕太

- ◆発行 名古屋芸術大学・大学院後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学・大学院後援会
広報委員会
- ◆表紙デザイン
本学デザイン学科卒業生 武藤理恵子
- ◆封筒デザイン
本学デザイン学科卒業生 福見光洋
- ◆発行日 2017年(平成29年)3月31日

